

V.1. 教員の教育研究・社会貢献活動

(2018年4月1日～2019年3月31日)

(1) 言語文化専攻

【言語文化比較交流論講座】

小門 典夫 (KOKADO Norio) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 比較言語文化論

〈共通教育担当科目〉 中国語初級、国際教養科目

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ルールに基づく多言語対応型機械翻訳ソフトの開発

小杉 世 (KOSUGI Sei) 准教授

<https://sites.google.com/site/seikosugi/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化変容論

〈共通教育担当科目〉 英語 (Reading)、実践英語、専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉 言語文化比較交流論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英語圏文学、オセアニアの先住民・移民文学文化と先住民言語教育、ポストコロニアル文化形成論、モダニズム研究、演劇とコミュニティ、環境芸術と文学、核の表象、医療と文学、先住民医療

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本オセアニア学会、オーストラリア・ニュージーランド文学会、文学/環境学会 (ASLE Japan)、日本ヴァージニア・ウルフ協会、国際演劇協会、NZSA (New Zealand Studies Association, UK)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ *Indigenous Transnationalism: Essays on Carpentaria*, Ed. by Lynda Ng, Giramondo Publishing, October 2018. 執筆担当章 ‘Survival, Environment and Creativity in a Global Age: Alexis Wright’s *Carpentaria*’, pp. 135-158. (招待執筆)

〈論文〉

- ・ ‘Trans-Pacific Imagination in the Anthropocene: The Work of Wu Ming-Yi and Alexis Wright’, *The Southern Hemisphere Review*, vol. 34, pp. 12-31. (査読有)

- ・「人新世のエコクリティシズム——Wu Ming-Yi、Alexis Wright、Amitav Ghosh を中心に」
『言語文化共同研究プロジェクト 2017：ポストコロニアル・フォーメーションズ XIII』
大阪大学大学院言語文化研究科、2018年5月、pp.73-85. DOI: 10.18910/69893.
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「キリバス民間人被ばく者の英米核実験をめぐる記憶」在阪報道関係者との大阪大学の研究成果に関するポスターセッション及び懇親会、大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホール、2019年3月8日。（ポスター発表）
- ・「想像力と身体芸術による当事者性への近接——キリバスでの英米核実験の表象をめぐる」国立民族学博物館共同研究プロジェクト（中原聖乃代表）研究会、国立民族学博物館、2019年1月19日。（口頭発表）
- ・「クリスマス島の現在——キリバス民間人被ばく者の英米核実験をめぐる記憶——」第3回大阪大学豊中地区 研究交流会「文×理『知』の融合」大阪大学南部陽一郎ホール、2019年12月18日。（ポスター発表）
- ・‘Island-to-Island Imagination: Wu Ming-Yi, Eunice Andrada and Kathy Jetnil-Kijiner’, (International Symposium) The Space Between: Creativity, Performance and Impact in Contemporary Island Societies, University of Hong Kong, 6-8 December, 2018. (国際シンポジウム招待発表)
- ・‘After 60 Years from the UK and USA Nuclear Tests: Narrative of i-Kiribati Civilian Residents in Kiritimati (Christmas Island), Kiribati’, (Panel title: The Everyday Life of Victims in Radiation Effects), UGAT Conference, Palawan State University, 8-10 November, 2018. (国際学会パネル発表)
- ・‘Anthropocene Ecocriticism and Trans-Pacific Imagination of Wu Ming-Yi and Alexis Wright’, The 6th International Symposium on Literature and Environment in East Asia, Taipei, 20-21 October, 2018. (国際シンポジウム発表)
- ・「人新世のエコクリティシズム—Wu Ming-Yi と Alexis Wright の太平洋横断的想像力」オーストラリア・ニュージーランド文学会春季大会、西南学院大学 西南コミュニティセンター、2018年6月23日。（学会口頭発表）
〈研究助成〉
- ・日本英文学会関西支部海外研究者招聘後援事業（2019年12月）
- ・国立民族学博物館共同研究プロジェクト研究成果発表旅費（2019年11月、フィリピン共和国パラワン）
〈調査活動〉
- ・2019年3月、マーシャル諸島（マジュロ・イバイ）：マジュロ環礁エジット島（Ejit）と首都マジュロ（Majuro）、及びクワジェリン環礁イバイ島（Ebeye）での住民と行政や NGO 関係者へのインタビュー調査、教育機関訪問、マーシャル文学に関する論文執筆のための背景調査（核実験・ミサイル実験をめぐる人の移動と基地をめぐる汚染問題、地球温暖化、

及びアーティストやNGOのこれらの問題に対する取り組み、学校教育におけるこれら諸問題の扱いについて)

- ・2018年11月、フィリピン共和国(マニラ、バターン): **Bellas Artes Projects** マニラ拠点での展覧会の視察、バターンの未稼働の原子力発電所見学

[その他の活動]

〈共同研究〉

- ・国立民族学博物館共同研究員(研究課題: オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究、研究代表者: 風間計博)
- ・国立民族学博物館共同研究員(研究課題: 放射線汚染をめぐる「当事者性」に関する学際的研究、研究代表者: 中原聖乃)

〈管理運営〉(全学) 国際交流委員会委員、Maple 運営 Sub-WG、(部内) 研究企画推進委員会委員、国際交流委員会委員、改修工事検討ワーキング、(部会内) 図書顧問

〈学会活動〉NZSA (New Zealand Studies Association, UK) Council member

〈社会貢献活動〉

- ・大阪大学 21 世紀懐徳堂ラボ・カフェ (講演会) 「杖(トコトコ)の物語—詩と先住民の視点から環境について考える (Tokotoko Tales: A Poetically Indigenous Environmentalism)」の主催と司会・通訳、アートエリア B1、2018 年 12 月 11 日。(講師: Dr. Selina Tusitala Marsh、ディスカッサント: 山田雄三)
- ・オープンレクチャー ‘What’s New/Niu about the New Zealand Poet Laureate?’ の主催と司会・通訳、大阪大学附属図書館豊中キャンパス総合図書館ホール、2018 年 12 月 10 日。(講師: Dr. Selina Tusitala Marsh)
- ・日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委員会書面審査員、国際事業委員会書面審査員/書面評価員 (2016 年 8 月 1 日~2018 年 7 月 31 日)

里内 克巳 (SATOUCHI Katsumi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 比較言語文化論

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉 19-20 世紀転換期アメリカ文学における人種・ジェンダー・階級、エスニック文学研究、自伝 (life narrative) 研究

〈所属学会〉 日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本マーク・トウェイン協会、京大英文学会

[研究業績]

〈書評・論評・紹介〉

- ・「現代作家としてのトウェイン」日本マーク・トウェイン協会 Newsletter 第 46 号 (2018

年9月) p.1.

- ・「アメ労編集委員会編『アメリカ文学と革命』書評」『英文学研究』第95巻(2018年12月) pp.127-32.
- ・「〈奇妙な言葉〉から読む文学」『英文学研究』支部統合号 第11巻(2019年1月) pp.255-58.
- ・「ひげを生やしたハックとトム」書肆侃侃房 HP 連載「現代アメリカ文学ポップコーン大盛」第3回 (2019年3月)
https://note.mu/kankanbou_e/n/na243b0f41f2b?magazine_key=m7a6f6213da27
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・近畿大学芸学部英語英米文学専攻主催講演会「自伝とアメリカ文学」講師(近畿大学ブロッサムカフェ・多目的ホール) 2019年1月15日
〈研究助成〉
- ・科学研究補助金・基盤研究C「罪悪感の文学——マーク・トウェイン小説作品の自伝的基盤を探る」(2016年4月～2020年3月) 研究課題番号 16K02490
[その他の活動]
〈管理運営〉英語部会主任、言語文化比較交流論講座代表者
〈学会活動〉日本マーク・トウェイン協会会長、日本アメリカ文学会関西支部副支部長、日本アメリカ文学会代議員、日本英文学会関西支部支部長推薦理事

ディボフスキー・アレクサンドル (DYBOVSKY Alexander) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化比較交流論、言語文化比較交流論特別研究

〈共通教育担当科目〉上級ロシア語、ロシア語中級、国際コミュニケーション演習(ロシア語)

〈学部教育担当科目〉ロシアの文学と芸術、旧ソ連圏諸国における言語政策。

[研究活動]

〈研究テーマ〉旧ソ連圏諸国における言語状況と言語政策、ロシアにおける日本学史、日本語教科書の政治学

〈所属学会〉日本ロシア文学会、日本ロシア文学会関西支部、JSSEES (The Japanese Society for Slavic and East European Studies)、日本ロシア語教育研究会その他

〈論文〉

- ・ Тема Японии в журналистике Дмитрия Матвеевича Позднеева (D.M.ポズドネエフのジャーナリズムにおける日本のテーマについて) // Материалы XXXIII Российско-японского симпозиума историков и экономистов ДВО РАН и района Кансай (Япония) 31 авг. – 1 сент. 2017 г. Владивосток. Владивосток: Изд-во Института истории, археологии и этнографии ДВО РАН, 2018. С. 107-126. (第33回ロシア科学アカデミー極東支部及び日本関西の研究者の

シンポジウムの資料) 2017年8月31日～9月1日 (ウラジオストク 2018. Pp. 107-126)

- О некоторых сходствах и различиях жизненных позиций, устремлений и ценностных ориентаций японской и китайской студенческой молодёжи (On some similarities and differences of Japanese and Chinese students' life positions, aspirations and value orientations). В соавторстве с Л.Л. Лариной (L.L. Larina との共著) . Известия Восточного института 2018 № 2 (38) С. 57-84 (『東洋学院通報』, 極東連邦大学 2018. 第 2 (38)号. Pp. 57-84.)
 - David Garrett's "Revolutions": A Sociocultural Interpretation // 表象と文化 XV, 言語文化共同研究プロジェクト 2017, 大阪大学言語文化研究科, 2018. Pp. 1-8.
 - Песня на уроке русского языка. Подходы, принципы и практические примеры использования (ロシア語の授業における歌謡の利用について—アプローチ, 利用の原則及び実践例—) // ロシア語教育研究 第 9 号 (日本ロシア語教育研究会, 2018) Pp. 1-13.
 - Алексей Матвеевич Позднеев (1851-1920) и практическое востоковедение России (А.М.ポズドнееフとロシアの実践的東洋学) // Историческая и социально-образовательная мысль (歴史社会教育思想), Том 10. № 4. Ч. 2 (第 2 巻、第 4 号、第 2 部) 2018 年 10 月. Pp. 83-104.
 - О некоторых сходствах и различиях жизненных позиций, устремлений и ценностных ориентаций китайских юношей и девушек. По материалам анкетного опроса 2016 г. В соавторстве с Л.Л. Лариной (中国の青年男女の人生観、願望及び価値観における若干の異同について —2016 年のアンケート調査結果に基づいて—L.L. Larina との共著) // Историческая и социально-образовательная мысль (歴史社会教育思想), Том 10. № 5. Ч. 2. (第 2 巻、第 5 号、第 2 部) 2018 年 12 月, pp. 85-101.
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ロシア語の授業における歌謡の利用について—若干のアプローチ、利用の原理及び用例—
日本ロシア語教育研究会 西日本地区例会 2018 年度、第 1 回 研究例会 2018 年 6 月 17 日
 - 旧ソ連圏諸国における言語戦争について (最終講義) 2019 年 3 月 7 日
 - Sight & Sound rendezvous (最終講義追加テーマとして) 2019 年 3 月 7 日
- 〈研究助成〉
- 平成 29 年度～平成 31 年度科学研究費補助金・基盤研究 (C) 「教科書の政治学：ロシアの歴史及び日本語教科書の一考察」 (研究分担者)
- 〈調査活動〉
- モスクワ大学、サンクトペテルブルグ大学、極東連邦大学 (ウラジオストク) における日本語教材使用状況に関する調査 (共同研究)
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉 紀要委員会委員
- 〈学会活動〉 露語雑誌 «Историческая и социально-образовательная мысль» (歴史社会教育思想) 編集委員 (<http://www.hist-edu.ru/hist/pages/view/EditorialC>)

〈社会貢献活動〉 奈良国際バレエ工房顧問

中 直一 (NAKA Naoichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 研究実践基礎、研究発表演習、言語文化交流論、言語文化比較交流論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 比較文学・比較文化、日独言語文化交流史、ドイツ啓蒙主義

〈所属学会〉 日本比較文学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「出島三学者の日本人論——日本人の国民性をめぐって」大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト 2017 言語文化の比較と交流 5』2018年5月(7-15頁)

〈研究助成〉

- ・平成29年度～平成31年度科学研究費助成事業基盤研究(C)(一般)「異文化受容及び文化変容としての森鷗外初期翻訳作品の研究」(課題番号:17K02592)

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員会委員長、言語文化学会委員会副委員長

〈学会活動〉 日本比較文学会理事・事務局長、日本比較文学会関西支部幹事

西村 謙一 (NISHIMURA Kenichi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化政策論

〈共通教育担当科目〉 多文化コミュニケーション

[研究活動]

〈研究テーマ〉 東南アジア地域研究、フィリピン現代政治研究

〈所属学会〉 日本国際政治学会、日本平和学会、日本比較政治学会、アジア政経学会、日本政治学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Kenichi Nishimura, "Hoe Does New Public Management Work in the Philippines?: An Empirical Study on the Local Governments in the Third World", *Journal of Multicultural Education and Student Exchange* (多文化社会と留学生交流) Vol.23, pp. 65-76, 2019年
- ・ 小林盾・西村謙一・川端健嗣「主観的ウェル・ビーイングにおける美容資本の役割は何か

—2018年インドネシアの地方自治意識調査の計量分析—『ソーシャルウェルビーイング研究論集』第5号、pp.29-46 (2019年3月)

- ・小林盾・西村謙一「インドネシアにおける容姿の規定メカニズムの計量分析—美しさは生まれつきか、合理的な投資戦略か—」*Review of Asian and Pacific Studies*, No.43, pp.197-208, 2019年

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・Kenichi Nishimura, “Local Development Council and its Effect to the Local Development Planning in the Philippines”, Towards Collaborative and Balanced Public Policy: The 5th International Conference on Social Policy and Governance South China University of Technology, October 27, 2018.

- ・西村謙一「フィリピン地方自治における開発評議会の効果」アジア政経学会 2018年度秋季大会、新潟大学、2018年11月24日

- ・Kenichi Nishimura, “How do the Elements of Local Government affect the Performance of the Local Development Council in the Philippines”, The 2018 Annual Conference of the Asian Group for Public Administration, University of the Philippines, November 28, 2018.

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤研究(A) 課題番号：15H02600 平成27年度～平成30年度「東南アジア地方自治ガバナンスに関する住民意識調査—フィリピンとインドネシアの比較」研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号：15K02639 平成27年度～平成30年度「ICT学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」(研究代表者：難波康治)、研究分担者
- ・日本貿易振興機構アジア経済研究所研究会 2018年4月～2020年3月「東南アジアにおける地方自治の新展開：自治体サーベイの分析」(主査・幹事：船津鶴代)、委員

[その他の活動]

〈管理運営〉男女協働推進センター会議委員、日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG

〈社会貢献活動〉兵庫県立高等学校評議員、同SGH企画推進委員会委員長

平山 晃司 (HIRAYAMA Koji) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化論

〈共通教育担当科目〉ギリシャ語初級・中級、ラテン語初級・中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉西洋古典学、古代ギリシアの宗教、古代法の宗教性に関する研究

〈所属学会〉日本西洋古典学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「初期アテナーイにおける殺人裁判と刑罰」『言語文化共同研究プロジェクト 2017 言語文化の比較と交流 5』29-36 頁、2018 年 5 月

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチメディア外国語教育委員会委員長

三浦 あゆみ (MIURA Ayumi) 准教授

<https://sites.google.com/site/helontheweb/>

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語史（特に古英語・中英語）、史的統語論、(史的) 語彙意味論、(史的) 辞書学

〈所属学会〉岩崎研究会、英語史研究会、近代英語協会、日本英文学会（関西支部）、日本中世英語英文学会（西支部）、Angus McIntosh Centre for Historical Linguistics、ISLE (International Society for the Linguistics of English)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・研究社『コンパスローズ英和辞典』（「語義のマッピング」専門執筆・校閲）

〈論文〉

- ・‘*Shall sweet Bianca practise how to bride it? The role of dummy object it in the diachronic transitivity change of denominal conversion verbs*’ *Studia Neophilologica* 90.1, 17-31. DOI: 10.1080/00393274.2017.1376290

[その他の活動]

〈学会活動〉日本中世英語英文学会評議員、日本中世英語英文学会西支部運営委員

〈社会貢献活動〉「教員のための英語リフレッシュ講座」講師（「英語史を通して英語を学び通す」）

ヨコタ村上 孝之 (YOKOTA-MURAKAMI Takayuki) 准教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~murakami>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化交流論

〈共通教育担当科目〉ロシア語中級、地域文化演習（ロシア語）

〈学部教育担当科目〉文学概論、ロシア文学講義、ロシア文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 比較文学・文化理論、セクシュアリティの系譜学的研究、現代日本コミックス・アニメ研究

〈所属学会〉 日本比較文学会、日本ロシア文学会、東大比較文学研究会、JSSEES、日本ロシア東欧学会、日本トルストイ学会、MLA、AAS、ENCLS、ICLA

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・ *Mother-tongue in Modern Japanese Literature and Criticism: Toward a New Polylingual Poetics*. Singapore: Palgrave, July 2018. (単著)

・ 阪本秀昭・中澤敦夫編『ロシア正教古儀式派の歴史と文化』 明石書店 2019年1月 (共著: 「古儀式派とセクト」 346-362頁)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ 「下から見たロシア——ロシアのトイレ事情」 大阪日ロ協会総会記念講演 エル大阪 2019年2月15日

・ “Abortion in Modern Japanese Literature.” BAJIS convention. The University of Sheffield. Sept. 6, 2018.

・ “The Cute, Flat, and Unreal: the Sexual Politics of Japanese and the East Asian Animation and Its Polemics against Euroamerican Comics.” International Conference of the Study on China, Japan, and Mongolia. The Mongolian State University. Aug. 29, 2018.

〈研究助成〉

・ 科学研究費基盤 (C) 「ラトビア・イディッシュ文学の研究」

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本ロシア文学会理事・学会賞選考委員、日本ロシア東欧学会理事・学会賞選考委員、JSSEES 理事・編集委員長

【言語文化システム論講座】

小川 敦 (OGAWA Atsushi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化システム論 A、B

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習 (国際教養2)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 社会言語学、ドイツ語圏の言語政策、ルクセンブルクにおける移民の言語的人権をめぐる言語教育政策

〈所属学会〉 日本独文学会、日本言語政策学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・田原憲和・木戸紗織（編著）『ルクセンブルクを知るための50章』（1、3、4、7、16、18、29、46、コラム13分担執筆）
- 〈論文〉
- ・小川 敦「移民国家における多言語教育制度 ―ルクセンブルクにおける統合のための施策」大阪大学言語文化研究科『言語社会共同プロジェクト2018 ドイツ語をめぐる言語社会研究』（2019年3月）
- 〈書評・論評・紹介〉
- ・小川 敦「書評『帝国・国民・言語一辺境という視点から』平田雅博・原聖（編著）」、歴史科学協議会『歴史評論』824（2018年12月号）、95-97頁
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・大澤麻里子／小川敦／境一三「イタリア・南チロルにおける CLIL を巡る言説」、日本語政策学会（2018年6月、早稲田大学）
- ・小川 敦「出張講義 多言語社会ルクセンブルク ― 社会と言語の役割の変化」、東洋大学経済学部「比較政策分析 ヨーロッパおよびドイツ語圏の言語状況と言語政策」（2018年11月1日、東洋大学）
- ・小川 敦「出張講義 私の外国語学習」、立命館大学 田原憲和・法学部准教授担当「教養ゼミナール」（2018年11月23日）
- ・大澤麻里子／小川敦「南チロルにおける CLIL 導入の課題」、言語教育エキスポ2019（2019年3月10日、早稲田大学）
- 〈研究助成〉
- ・科学研究費補助金（基盤(C)）「ルクセンブルクにおける移民の子弟への識字教育支援 ― 社会経済的不平等の解消のために」（2017-2020年）研究代表者
- ・科学研究費補助金（基盤(B)）「自治体移民言語政策と言語認識に関する国際比較研究」（2018-2021年）研究分担者
- 〈調査活動〉
- ・ルクセンブルクにおける複言語教育政策、識字教育の実地調査（2018年11月）
- ・南チロル（イタリア）における複言語教育政策、とくに CLIL の実地調査（2019年3月）
- ・ルクセンブルク市の移民言語政策に関する実地調査（2019年2月）
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉言語文化研究科ネットワーク委員、同コンテンツ委員、同広報・社会貢献検討委員、言語文化学会委員
- 〈学会活動〉日本独文学会ドイツ語学ゼミナール実行委員、同データベース委員

霜島 慶邦 (SHIMOTORI Yoshikuni) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化理論研究 A/B

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 第一次世界大戦の記憶の総合的研究、英語圏英語文学・文化

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本ロレンス協会、カルチュラル・スタディーズ学会、The Wilfred Owen Association、The Siegfried Sassoon Fellowship

〈論文〉

- ・ 「21 世紀の Wilfred Owen (たち)」、『第 90 回大会 Proceedings』、日本英文学会、2018 年 10 月、pp. 77-78.
- ・ “‘Ah, We’re All Pagans Here’: The Irishness, Globalness and Twenty-First-Century-ness of the Memory of the First World War in Sebastian Barry’s *A Long Long Way*”, *Studies in English Literature* 60, March 2019, pp. 1-20.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ シンポジウム「100 年目の Wilfred Owen」、担当発表「21 世紀の Wilfred Owen (たち)」、日本英文学会第 90 回大会、東京女子大学、2018 年 5 月 19 日.
- ・ パネル「グローバルな「移動」をめぐる」、担当発表「ある英国詩人の広島印象——原爆、記憶、観光——」、カルチュラル・タイフーン 2018、龍谷大学、2018 年 6 月 23 日.

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金（基盤(C)）「第一次世界大戦 100 周年のために：現代イギリスにおける大戦の記憶の総合的研究」（2015-2018 年度）研究代表者.
- ・ 平成 30 年度 公益信託福原記念英米文学研究助成基金（福原賞）、出版助成

〈調査活動〉

- ・ 第一次世界大戦の記憶に関する現地調査（英国、フランス、ベルギー、2019 年 8 月 23 日～9 月 11 日）.

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本英文学会関西支部編集委員、日本ロレンス協会編集委員

〈社会貢献活動〉 英語リフレッシュ講座 WG 委員

津田 保夫 (TSUDA Yasuo) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tsuda/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 文化分析方法論、言語文化システム論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養科目

[研究活動]

〈研究テーマ〉 18 世紀ドイツ文学、文学的人間学

〈所属学会〉 日本独文学会、日本ヘルダー学会、日本ゲーテ協会、阪神ドイツ文学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

〈論文〉

- ・「十八世紀ドイツの人間学的転回とハレ大学の学問状況」(言語文化共同研究プロジェクト 2017『「文化」の解読(18)』2018年5月)

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金・基盤研究(C)「18世紀ドイツにおける人間学的転回と近代文学の成立」

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガル教育センター派遣教員、全学FD委員会委員

〈学会活動〉 日本ヘルダー学会理事

林 千宏 (HAYASHI Chihiro) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 文化分析方法論

〈共通教育担当科目〉 フランス語初級、フランス語中級

〈学部教育担当科目〉 フランス文学講義

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ルネサンス・フランス文学

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会、日本ロンサール学会、大阪大学フランス語フランス文学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『実用フランス語技能検定試験 2018年度3級 仏検公式ガイドブック』(フランス語教育振興協会編、第1部担当 p.11-p.144、4月)

〈論文〉

- ・「鏡とエンブレム—セーヴ、ロンサール、ベローにおける鏡のモチーフ」(大阪大学言語文化研究科「言語文化研究プロジェクト 2017」『表象と文化 XV』p.9-p.20、5月)
- ・「レミ・ベローにおける牧歌の詩学—『牧歌』(1565)を中心に—」(『ロンサール研究』XXXI、p.77-p.98、8月)

〈書評・論評・紹介〉

- ・連載「仏検3級対策 3級はこわくない！」(『ふらんす』白水社)
 - 第2回「動詞の活用、どう攻略する？」p.33-35、4月
 - 第3回「仏検直前、何をすべき？」p.33-35、5月
 - 第4回「仏検直後、あやふやなところを見直そう！」p.33-35、6月
 - 第5回「前置詞、どんなふう勉強すればいい？」p.33-35、7月

- 第 6 回「並び替え問題の攻略法は？」 p.33-35、8 月
- 第 7 回「聞き取り問題、ここで差が出る！」 p.33-35、9 月
- 第 8 回「話の流れを読むために」 p.33-35、10 月
- 第 9 回「文法を振り返ろう—法について」 p.33-35、11 月
- 第 10 回「長文読解、どうクリアする？」 p.33-35、12 月
- 第 11 回「準 2 級から考える 3 級対策—聞き取り問題・二次試験篇」 p.37-39、1 月
- 第 12 回「準 2 級から考える 3 級対策—聞き取り問題・筆記試験篇」 p.33-35、2 月
- ・連載「仏検 4 級対策 らくらく初級マスター講座」(『ふらんす』白水社)
- 第 1 回「仏検に挑戦しよう！」 p.46-48、3 月

〈研究助成〉

- ・科学研究費若手研究 (18K12342)「フランス・ルネサンス文学における芸術作品の解釈・鑑賞行為の表象」

[その他の活動]

〈管理運営〉 キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員長

〈学会活動〉 日本ロンサル学会幹事・編集委員、日本フランス語フランス文学会語学教育委員、日本フランス語フランス文学会関西支部実行委員

〈社会貢献活動〉 実用フランス語技能検定試験専門委員

福田 覚 (FUKUTA Satoshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化理論研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語中級、国際教養 2

〈学部教育担当科目〉 言語文化システム論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ語圏の詩学史・思想史・文学

〈所属学会〉 日本独文学会、同京都支部会、日本 18 世紀学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「レッシング『ミス・サラ・サンプソン』における父の規範と娘の葛藤—両価的感情の物語表現として見た悲劇の構図」『ドイツ啓蒙主義研究 15』(大阪大学大学院言語文化研究科、2018 年 5 月 31 日) S.23-39
- ・「レッシング『ミス・サラ・サンプソン』における物語の動きと情念の喚起—「作者性」という視点からの解釈の試み」『希土』(希土同人社、2018 年 8 月 1 日) 第 43 号 S.33-62

森 祐司 (MORI Yuji) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 公共文化形成論 A・B、言語文化システム論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語、英語選択、専門英語基礎、

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アウトドア言語文化研究

〈所属学会〉 大阪大学言語文化学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガル教育センターカリキュラム委員長

我田 広之 (WAGATA Hiroyuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 公共文化形成論、言語文化システム論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級

〈学部教育担当科目〉 言語文化システム論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ思想史、ドイツ文化史

〈所属学会〉 日本ドイツ学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 国際教育交流センター教授会構成員

〈学会活動〉 第16回日本独文学会賞ドイツ語部門選考委員会委員

【現代超域文化論講座】

伊勢 芳夫 (ISE Yoshio) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 現代超域文化論 A・B、現代超域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 19世紀英国植民地小説と日本植民地小説、及び、イギリス、インド、そして日本の近代化の知の考古学的比較研究

〈所属学会〉 日本キプリング協会、日本英文学会、日本英文学会関西支部

[研究業績]

〈共著〉

・『プロジェクト2017 ポストコロニアル・フォーメーションズ XIII 』（言語文化研究科、2018年5月）

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・シンポジウム（講師）、日本比較文学会 第45回中部大会、2018年12月8日、於 中京

大学

〈研究助成〉

- ・2016-2018年度科学研究費補助金・基盤研究(C) (研究代表者)「19・20世紀のイギリスと日本における近代化言説の文学・文化論的比較研究」

〈調査活動〉

- ・イギリス領インドにおける植民地政策、及びイギリス人によるインド表象の構築と、日本の近代化と植民地政策に関する資料収集・分析

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科・副研究科長 (平成26年4月より)

〈学会活動〉日本英文学会関西支部評議員、日本キプリング協会会長

北村 卓 (KITAMURA Takashi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉現代社会ダイナミクス論、現代超域文化論特別研究 (言語文化研究科)

〈共通教育担当科目〉フランス語 (初級・中級)

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス近代詩、日仏文化交流、現代消費文化論、フランス語教育法 など

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本比較文学会、日本演劇学会、日本フランス語教育学会、e-Learning 教育学会、ボードレール研究会、シャンソン研究会 など

[研究業績]

〈編著〉

- ・『表象と文化 XV』大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト 2017」, 97P. (2018)
〈共編著 (語学参考書)〉
- ・『実用フランス語技能検定試験 2018年度版 5級 仏検公式ガイドブック』フランス語教育振興協会編, 「第1部」, pp.11-107. (2018)

〈論文〉

- ・「谷崎潤一郎のボードレール受容に関する一考察——谷崎訳 « Le Fou et la Vénus » をめぐって」, 大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト 2017」, 『表象と文化 XV』, pp.43-54. (2018)

〈書評〉

- ・「翻訳と研究の融合——シャルル・ボードレール著、山田兼士訳・解説『小散文詩 パリの憂愁』(思潮社、2018年)」, 大阪文学学校『樹林』649号, pp.106-107. (2019)

〈講演〉

- ・「Takarazuka et la France」, カフェ・デ・ザミ, アリアンス・フランセーズ札幌, 2018年12月8日
- ・「フランス、日本、そして北海道——日仏修好160周年にあたって」, 札幌日仏協会創立

30周年記念シンポジウム基調講演, 北海道大学, 2018年12月9日

- ・「ボードレール研究の可能性——テキストから世界へ」, 大阪大学フランス語フランス文学会研究会, 大阪大学文学研究科, 2019年3月2日

〈招待講義〉

- ・「宝塚歌劇のイメージ戦略——海外公演を中心に」, 明治大学連続講義「情報コミュニケーション学——「トランスナショナル・コミュニケーションにおける流行,文化現象の形成と伝達」」第13回, 2018年12月17日

〈最終講義〉

- ・「日本におけるフランス——ボードレールからポピュラーカルチャーまで」, 大阪大学言語文化研究科, 2019年3月7日

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金 基盤研究C(研究代表者) 課題番号15K02456

「日本におけるボードレール受容の総合的研究」

[その他の活動]

〈管理運営〉(学内) 人権問題委員会、ハラスメント相談室(副室長補佐)(部内) 人権問題委員会(委員長)

〈国際交流〉部局間学術交流協定コンタクトパーソン(リトアニア共和国ヴィータウタス・マグヌス大学人文学部)

〈サークル顧問〉SF研究会、フロイントコール

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会副会長、e-Learning教育学会幹事/同学会誌編集委員、大阪大学フランス語フランス文学会幹事/同学会誌編集委員

〈社会貢献活動〉公益財団法人日本フランス語教育振興協会副理事長、実用フランス語技能検定試験審査委員、

西日本高校生フランス語コンクール審査委員長、公益財団法人神戸市演奏協会評議員選定委員会委員

木原 善彦 (KIHARA Yoshihiko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉現代超域文化論、現代超域文化論特別研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉現代アメリカ文学、文体論

〈所属学会〉日本英文学会、日本アメリカ文学会、京大英文学会

[研究業績]

〈翻訳・翻訳書〉

- ・アリ・スミス(Ali Smith)『両方になる』(How to Be Both)、新潮社(2018年9月)

- ・ウィリアム・ギャディス(William Gaddis)『J R』、国書刊行会(2019年12月)
〈口頭発表・講演・学会報告〉
 - ・「空震化する世界大戦——Thomas Pynchon の *Gravity's Rainbow* と *Against the Day*」第57回
日本アメリカ文学会全国大会シンポジウム「第1次世界大戦終結100年——アメリカ文学と世界、そのゆくえ」(2018年10月7日、実践女子大学〔東京〕)
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉豊中地区事業場安全衛生委員会文系ブロック代表、安全衛生委員会委員長
 - 〈学会活動〉日本英文学会編集委員、日本アメリカ文学会関西支部運営委員および編集委員、京大英文学会アルビオン賞選考委員会委員長
 - 〈社会貢献活動〉英語リフレッシュ講座講師

木村 茂雄 (KIMURA Shigeo) 教授

[教育活動]

- 〈研究科担当科目〉現代超域文化論、現代超域文化論特別研究
- 〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、先端教養科目「知性への誘い」
- 〈学部教育担当科目〉現代超域文化論(大学院共通科目)

[研究活動]

- 〈研究テーマ〉英語圏文学、ポストコロニアル理論を中心とする文化理論
- 〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部

[研究業績]

- ・「はじめに」、『言語文化共同研究プロジェクト2017 ポストコロニアル・フォーメーションズ XIII』大阪大学大学院言語文化研究科, 2018年5月, pp. 1-4.

[その他の活動]

- 〈管理運営〉言語文化研究科長
- 〈社会貢献活動〉「教員のための英語リフレッシュ講座」企画WG座長、懐徳堂記念会学術専門委員

中村 綾乃 (NAKAMURA Ayano) 准教授

[教育活動]

- 〈研究科担当科目〉現代超域文化論
- 〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、中級、国際教養科目

[研究活動]

- 〈研究テーマ〉ドイツ近現代史、ドイツ東アジア関係史、植民地研究
- 〈所属学会〉日本西洋史学会、日本ドイツ学会、ドイツ現代史学会、阪神ドイツ文学会、日本独文学会ドイツ語教育部会

[研究業績]

〈論文〉

- ・解説・訳「ハインツ・アルトシュールロ述回想『記憶を刻みながら』に寄せて ―赤印字が刻まれたパスポートと神戸のドイツ人コミュニティ―」大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト 2017 言語文化の比較と交流 5』2018 年 5 月 (17-27 頁)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・口頭発表
- ・ German Community and Denazification in Shanghai during and after the WWII, International Political Science Association (IPSA), the 25th IPSA World Congress 2018, Brisbane (2018 年 7 月 24 日)
- ・「二つの中国」と上海ドイツ人コミュニティ 第 28 回 近現代東北アジア地域史研究会大会 (2018 年 12 月 8 日)

〈研究助成〉

- ・研究代表者 科学研究費補助金 (若手 B) 「ドイツ帝国の南洋統治に関する研究」

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・マルチリンガル教育センターカリキュラム委員
- ・ハラスメント相談員

宮崎 麻子 (MIYAZAKI Asako) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 現代超域文化論

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養科目

〈学部教育担当科目〉 現代超域文化論 (外国語学部)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ語圏の現代文学、東ドイツの記憶と想起、姉妹の表象をめぐる比較文学

〈所属学会〉 日本独文学会、日本ドイツ学会、阪神ドイツ文学会

[研究業績]

〈作品〉

- ・「ベルリン・ワルシャワ・エクスプレス」(旅行エッセイ)、『ラテルネ』同学社 2019 年 3 月、18-19 頁。

山本 佳樹 (YAMAMOTO Yoshiki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化メディア論、現代超域文化論特別研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

〈学部教育担当科目〉現代超域文化論、文化概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ映画、ドイツ文学

〈所属学会〉日本映画学会、日本映像学会、日本独文学会、オーストリア文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学ドイツ文学会、言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「東ドイツにおける文学作品の映画化—『ヴァイマルのロッセ』を例に」、『「文化」の解読 (18) —神話的なものとその解体』言語文化共同研究プロジェクト 2017 (大阪大学大学院言語文化研究科)、pp. 33-42、2018年5月

〈翻訳書 (単訳)〉

- ・ゼバスティアン・ハイドウシュケ 『東ドイツ映画—デーファと映画史』(鳥影社)、279 p.、2018年12月

〈口頭発表〉

- ・東ドイツ映画における建築物—『建築家たち』を中心に (シンポジウム「東ドイツ (DDR) 再考—政治と文化の力学」報告 3、2018年12月15日、阪神ドイツ文学会第227回研究発表会 (阪南大学))

〈研究助成〉

- ・ドイツ語圏における文学作品の映画化についての映画社会学的研究 (科学研究補助金・基盤研究 C、研究代表者、2016年度~2018年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉ファカルティ・ディベロップメント委員会委員、現代超域文化論講座講座主任

〈学会活動〉日本映画学会顧問、日本独文学会支部選出理事、日本独文学会賞選考委員会委員、阪神ドイツ文学会幹事

ヨコタ ジェリー (Gerry Yokota) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~gyokota/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ジェンダー論、現代超域文化論特別研究

〈共通教育担当科目〉英語(Writing)、専門英語基礎、人間教育講座 (現代の差別を考える: 女性学・男性学)、G30 科目 (Gender in Contemporary Japanese Popular Culture)、未来共生科目 (Advanced English for Multicultural Communication)

[研究活動]

〈研究テーマ〉応用認知言語学、レトリック、メタファー、ジェンダー論、能楽、アニメ

〈所属学会〉International Gender and Language Association (IGALA)、International Society for

Language Studies (ISLS), Japan Association for Language Teaching (JALT)

[研究業績]

〈論文〉

- “How To Be a Gender Literate Reader.” *Journal of the Gender Awareness in Language Education Special Interest Group of the Japan Association for Language Teaching*, Vol. 10, pp. 49-68. 2018.8.
- “Archetypal Literacy for Intercultural Communication: From Noh to Anime and Beyond.” レトリック、メタファー、ディスコース (言語文化共同研究プロジェクト 2017), 大阪大学大学院言語文化研究科, pp. 109-117. 2018.5.

〈口頭発表〉

- “The Opposite of Waste.” 3rd International Symposium on Applied Humanities, University of Tsukuba. 2019.3.
- “The JALT Code of Conduct: Professional Development +.” JALT Executive Board Meeting, Ogaki. 2019.2.
- 「百の治療より一の予防：転ばぬ先の杖」とよなか国際交流センター ボランティアのためのハラスメント研修会. 2019.2.
- “The Power of Myth: Storytelling with Gerry Yokota, Part 3.” Terakoya 108, Kyoto. 2018.12.
- “The Power of Myth: Storytelling with Gerry Yokota, Part 2.” Terakoya 108, Kyoto. 2018.11.
- “The JALT Code of Conduct: Our Goals, Your Rights.” JALT International Conference Poster Presentation, Shizuoka. 2018.11. With Kathleen Cahill and Tanja McCandie.
- “The Power of Myth: Storytelling with Gerry Yokota, Part 1.” Terakoya 108, Kyoto. 2018.10.
- 「日本『伝統文化』から勘合える異文化間コミュニケーション」とよなか国際交流センター 秋の公開講座. 2018.10.
- “Are We Listening? Responding to the Challenges of Diversity.” Niigata JALT. 2018.10.
- 「ダイバーシティ教育—現状と課題—」大阪大学言語文化研究科公開講座 (教員のための英語リフレッシュ講座). 2018.8. With Kanako Yamaoka.
- “Gender Literacy in Action.” Guest Lecture, University of Kitakyushu. 2018.7.
- “‘We Crossed a Bridge and It Trembled’: Accessing the Power of Metaphor.” International Society for Language Studies Conference, Wilfred Laurier University, Waterloo, Ontario, Canada. 2018.6.
- “Are We Listening? Responding to the Challenges of Diversity.” Nagoya JALT. 2018.5.

[その他の活動]

〈管理運営〉 公開講座 WG、『未来共生』編集委員会委員、未来共生国際連携 WG

〈学会活動〉 JALT GALE-SIG (Gender Awareness in Language Education Special Interest Group) 役員

〈社会貢献活動〉 公開講座講師

【言語コミュニケーション論講座】

植田 晃次 (UEDA Kozi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究 A・B (副題：多言語主義あるいは多言語主義研究の諸問題)

〈共通教育担当科目〉朝鮮語初級 I・II、朝鮮語中級、国際コミュニケーション演習 (朝鮮語)、地域言語文化演習 (朝鮮語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本における朝鮮語教育史、在外朝鮮民族の言語をめぐる諸問題、朝鮮語に対する言語政策

〈所属学会〉朝鮮学会、多言語社会研究会、朝鮮史研究会、韓国社会言語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「中国朝鮮語の規範化方針の転換の軌跡とその可能性－『朝鮮語規範集』(2016年)での修正を手掛かりに－」『批判的社会言語学のメッセージ (言語文化共同研究プロジェクト 2017)』大阪大学大学院言語文化研究科、2018.5、31-42 頁
- ・「日本近代朝鮮語教育史の視点から見た笹山章と朝鮮語－人物史と著書を通して－」李東哲・安勇花 主編『日本語文化研究』第五輯 (下)、延辺大学出版社、2018.6、89-97 頁 (口頭発表・講演・学会報告)
- ・「銀行員・弓場重栄と朝鮮語－日本近代朝鮮語教育史の視点から－」(第69回朝鮮学会大会、2018年10月7日、於天理大学2号棟23A)

〈研究助成〉

- ・2018～2020年度 (予定)：科学研究費補助金基盤研究 (C)「旧朝鮮語学」の視点から見た日本近代朝鮮語教育史の総合的研究 (研究課題番号：18K00782、研究代表者)
- ・2017～2019年度 (予定)：科学研究費補助金基盤研究 (C)「漢字文化を基礎とした中期朝鮮語文法および語彙表の開発」(研究課題番号：17K02962、研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・言語文化研究科：豊中地区事業場安全管理者、朝鮮語部会主任、部会主任会議・財務会計・外国語教務・マルチメディア外国語教育・紀要編集・安全衛生・カリキュラムの各委員会委員 (2018年度)、広報・社会貢献検討委員会委員 (2018年度後期～2019年度前期)、言語文化B棟改修工事検討ワーキングメンバー (2018年1月～)
- ・マルチリンガル教育センター：兼任教員
- ・全学：博士教育課程リーディングプログラム「未来共生イノベーター博士課程プログラム」プログラム担当者 (2012年10月～)

〈学会活動〉 東アジア日本学研究会理事 (2018 年 10 月～)

〈社会貢献活動〉 放送大学面接授業「韓国語初級：ゼロから築く基礎力」(大阪学習センター、2018 年 10 月 27 日・11 月 10 日)

榎本 剛士 (ENOMOTO Takeshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語コミュニケーション論 A、言語コミュニケーション論 B

〈共通教育担当科目〉 実践英語、英語 (Reading)、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉 語用論、記号論、教育言語人類学、実践論・出来事論としての言語研究、言語イデオロギーを含むメタ・コミュニケーション研究

〈所属学会〉 社会言語科学会、日本英語教育史学会、International Pragmatics Association、American Anthropological Association、American Association for Applied Linguistics

[研究業績]

〈論文〉

- ・「教室における『授業』と『英語』の非自明性から考える『英語教育』の再帰的批判と『ことばの教育』の再興」佐藤慎司・村田晶子編著『人類学・社会学的視点からみた過去、現在、未来のことばの教育：言語と言語教育イデオロギー』(146-169 頁)、三元社、2018 年 11 月.
- ・「大村はまと『話し合い』への希望」『自律した学習者を育てる英語教育の探求⑨：小中高を接続することばの教育として』研究報告 No. 91、46-55 頁、2018 年 5 月.
- ・「言語イデオロギーとしての『英語教育』：中学校英語授業からの覚え書き」『相互行為研究④：談話とイデオロギー』言語文化共同研究プロジェクト 2017、19-28 頁、2018 年 5 月.
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「CEFR にとって『英語教育』とはいかなるコンテキストか：これからの批判的対話に向けて」、国際研究集会 2019「CEFR の理念と現実」、2019 年 3 月.
- ・『「コンテキスト」をどう見立てるか？：言語コミュニケーション論の視点から』、第 3 回大阪大学豊中地区研究交流会、2018 年 12 月.
- ・Poetics and performance as critical perspectives on foreign language socialization and classroom life, Sociolinguistics Symposium 22, 2018 年 6 月.

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金若手研究 (B)、「コミュニケーション論に基づく学校英語教育のエスノグラフィー」(研究代表者、平成 28 年度～平成 30 年度、課題番号：16K17415)

[その他の活動]

〈管理運営〉 設備・施設マネジメント委員会委員、図書委員会委員、紀要編集委員会委員、英語部会会計、「教員のための英語リフレッシュ講座」企画ワーキンググループ委員

〈学会活動〉 日本英語教育史学会理事、日本英語教育史学会紀要編集委員
〈社会貢献活動〉 平成 30 年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座「教員のための英語
リフレッシュ講座」講師、大阪大学次世代型市民講座 2018「英語 2」講師、公益財団法人
中央教育研究所「自律した学習者を育てる言語教育の探求：小中高大を接続することばの
教育として」研究プロジェクトメンバー

王 周明 (WANG Zhouming) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語運用理論研究

〈共通教育担当科目〉 中国語初級、中国語中級、国際コミュニケーション演習（中国語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中国語歴史文法、方言文法

〈所属学会〉 日本中国語学会、日本中国近世語学会、中日理論言語学研究会

〈調査活動〉

- ・ 中国福建省にてフィールドワーク実施（2018 年 12 月～2019 年 1 月）

[その他の活動]

〈管理運営〉 言語文化研究科：紀要編集委員会委員・マルチメディア外国語教育委員会委員
・ 研究企画推進委員会委員・国際交流委員会委員

〈学会活動〉 学術誌（中国語学、言語文化）の査読

〈社会貢献活動〉 京都大学非常勤講師

大前 智美 (OMAE Tomomi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語技術研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級Ⅰ、ドイツ語初級Ⅱ、地域言語文化演習（ドイツ語）、
情報探索入門

[研究活動]

〈研究テーマ〉 外国語教育、e-Learning、アクティブラーニング、ICT 活用

〈所属学会〉 日本独文学会ドイツ語教育部会、日本ドイツ語情報処理学会、e-Learning 教育
学会、外国語メディア教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 渡邊ゆきこ，大前智美，「発話を促す多言語教材の開発-外国語教育における音声認識・合
成音声 API の可能性-」，『2018 PC Conference 論文集』，p.56-59，2018 年 8 月発行

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 渡邊ゆきこ，大前智美，「発話を促す多言語教材の開発-外国語教育における音声認識・合

成音声 API の可能性-」, 2018 PC Conference, 2018 年 8 月

・大前智美, 「ロイロノートを使ってみましょう」, ロシア語教育研究会, 2018 年 10 月
〈研究助成〉

・基盤研究 C, 「小中高大連携を見据えた外国語教育と ICT の接点を探る研究ならびにアー
カイブの開発」, 研究分担者, 2017 年～2019 年

[その他の活動]

〈学会活動〉 e-Learning 教育学会理事、事務局、会計、学会誌編集委員

〈社会貢献活動〉次世代型市民講座 2018

佐藤 彰 (SATO Akira) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究

〈共通教育担当科目〉英語 (Reading)、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉談話分析、社会言語学、語用論

〈所属学会〉 International Pragmatics Association、社会言語科学会、言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

・「メディアにおいて原発事故の現場作業員はどう扱われたか」大阪大学大学院言語文化研
究科『言語文化共同研究プロジェクト 2017: 相互行為分析④-談話とイデオロギー-』2018
年 5 月、pp.1-10.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・“Heroes in the West, but not in Japan: Media portrayal of the workers at the Fukushima Daiichi
Nuclear Power Plant”, Sociolinguistics Symposium 22, University of Auckland (Auckland, NZ),
2018 年 6 月 29 日.

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究 (C) (研究代表者: 佐藤彰 研究課題: 災害報道の談話分析的
研究)

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチメディア外国語教育委員会 (英語部会) .

〈学会活動〉メディアとことば研究会役員、言語文化学会委員.

瀧田 恵巳 (TAKITA Emi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語コミュニケーション論、言語運用理論研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養科目

[研究活動]

〈研究テーマ〉ダイクシス研究、方向表現を中心とする意味論

〈所属学会〉日本独文学会、九州大学独文学会、西日本独文学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・『『デュランデ城』における風景描写のダイクシス（その1）』『言語文化共同研究プロジェクト 2017・時空と認知の言語学Ⅶ』 pp. 21-30. 大阪大学言語文化部・大学院言語文化研究科. 2018年5月

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院教務委員会委員

秦 かおり (HATA Kaori) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究 B、言語コミュニケーション論特別研究 AB、研究実践基礎、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学、相互行為論、コミュニケーション学、ナラティブ研究。特に、排除、差別問題。移民としての在英邦人女性を取り巻く社会的文化的環境の調査

〈所属学会〉社会言語科学会、国際語用論学会、日本英語学会、日本社会学会、日本語用論学会、日本マス・コミュニケーション学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「タスク達成場面における共同行為ー折り紙場面を事例にー」(単著)、日本語用論学会第20回大会発表論文集第13号、pp. 299-302、2018年7月.
- ・「Brexit 騒動後の日本人移民の新たなポジショニングーEU 離脱派の親戚を通してみるイデオロギーの中でー」(単著)、社会言語科学会第42回大会発表論文集、pp. 213-216、2018年9月.

〈口頭発表〉

- ・ Negotiating identities, negotiating differences: How participants engage in a story making project (Colloquium organizer). Sociolinguistics Symposium 22、於：Auckland University、オークランド、ニュージーランド、2018年6月28日.
- ・ “Let me try!”, “leave it to me”: How is the generation of ‘digital age’ constructed in the process of interactions?. Sociolinguistics Symposium 22、於：Auckland University、オークランド、ニュージーランド、2018年6月28日.
- ・ “Good migrants”, “bad migrants”: A multimodal analysis of interview narratives of Japanese women

living in the UK. Sociolinguistics Symposium 22、於：Auckland University、オークランド、ニュージーランド、2018年6月29日。

- ・「Brexit 騒動後の日本人移民の新たなポジショニング—EU 離脱派の親戚を通してみるイデオロギーの中で—」社会言語科学会第42回研究大会、於：広島大学、広島県、2018年9月23日。
- ・「異文化理解と多文化共生—在英邦人女性調査からの提案—」（公開特別シンポジウム）、日本英語学会第36回大会、於：横浜市立大学、神奈川県、2018年11月24日。
- ・「多人数インタラクションにおける課題達成談話—「わかる」を共有するプロセスに着目して—」第3回大阪大学豊中地区研究交流会、於：大阪大学、大阪府、2018年12月18日。
- ・「『普通にすること』というメタ・フレーム—データ収集場面における親子の会話を解読する」シンポジウム「日常会話コーパス IV」、於：国立国語研究所、東京都、2019年3月4日。
- ・“How to instruct the way of seeing and understanding the phenomenon: A case study using multimodal and narrative analyses,” EIL2019 & LCI-7 Joint International Symposium: Embodied Interaction and Linguistics 2019, Language, Cognition, and Interaction 7、於：国立国語研究所、東京都、2019年3月11日。

〈調査活動〉

- ・海外インタビュー調査、英国ロンドン補習授業校保護者(2018年8月28日～9月17日、英国ロンドン)

[その他の活動]

〈管理運営〉キャンパス・ハラスメント問題小委員会、カリキュラム検討ワーキング・グループ

〈学会活動〉日本語用論学会広報委員、日本英語学会大会運営委員、International Cognitive Linguistics Conference 査読委員

〈社会貢献活動〉放送大学面接授業「初級英語」、みのお FM「まちのラジオ」出演(2018年8月9日放映)、特別講演「戦前期から戦中期のアメリカにおける日本語教育とその後」(講師:朝日祥之氏(国立国語研究所 准教授)企画(2018年10月29日)、「異文化理解と多文化共生—ミクロ・マクロアプローチからみる「ことば」の諸問題」日本英語学会大36回大会公開特別シンポジウム企画(村田和代氏を代表者として)・司会(2018年11月24日)

村岡 貴子 (MURAOKA Takako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語技術研究、言語コミュニケーション論

〈共通教育担当科目〉専門日本語、現代の差別を考える—男性学・女性学—

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育学、専門日本語教育研究、アカデミック・ライティング教育研究

〈所属学会〉日本語教育学会、専門日本語教育学会、社会言語科学会、異文化間教育学会、
日本文体論学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・村岡貴子 (2018a) 「第 1 章 ライティングと社会をつなぐライティング教育の視点」村岡貴子・鎌田美千子・仁科喜久子編著『大学と社会をつなぐライティング教育』くろしお出版, pp.3-13
- ・村岡貴子 (2018b) 「第 3 章 ライティング活動とその内省から獲得する論文スキーマ」村岡貴子・鎌田美千子・仁科喜久子編著『大学と社会をつなぐライティング教育』くろしお出版, pp.35-54

〈論文〉

- ・劉偉・村岡貴子 (2019) 「学術的文章の引用に関する意識調査 —中国人上級日本語学習者の事例分析—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集多文化社会と留学生交流』第 23 号, pp.77-89

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・村岡貴子 (2018a) 「論文執筆を目的とした日本語が学習者の読解」口頭発表, 『日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明』研究発表会, 2018.9.29, 於: 国立国語研究所
- ・村岡貴子 (2018b) 「上級日本語アカデミック・ライティング教育の方法 —大学院在籍の学習者に対する観察を通して—」講演, 『九州大学言語文化研究院 学術講演会』, 2018.12.3, 於: 九州大学
- ・村岡貴子 (2018c) 「大学院日本語学習者のためのアカデミック・ライティング教育 —論文スキーマ形成を促すために—」口頭発表, 『作文研究 2018』, 2019.1.13, 於: 早稲田大学
- ・村岡貴子 (2018d) 「ファーストステップを始めとする留学生受入れ・派遣プログラムのカリキュラムデザイン —大阪大学の事例—」講演, 金沢大学国際機構 FD 研修会, 2019.2.13
- ・村岡貴子 (2019e) 「日本語教育の実践をリソースとして学習者研究の深化・拡大へ —上級日本語アカデミック・ライティングの事例をもとに—」講演, 『第 4 回日本語教育の理論と実践をつなぐ国際シンポジウム』, 2019.3.17, 国際交流基金北京日本語日本文化センター・北京日本学研究中心, 於: 中国高等教育出版社 (北京)
- ・村岡貴子 (2019f) 「学習者とコミュニティ・社会をつなぐ専門日本語教育の実践・研究の可能性」パネル・ディスカッション, 『第 4 回日本語教育の理論と実践をつなぐ国際シンポジウム』 2019.3.17, 国際交流基金北京日本語日本文化センター・北京日本学研究中心, 於: 中国高等教育出版社 (北京)

- ・太田亨・安龍洙・菊池和徳・村岡貴子（2019）「韓国人文系大学生と日韓理工系学生の「論理的文章」に対する意識の比較分析」『第21回専門日本語教育学会研究討論会誌』 pp.34-35, 2019.3.4, 於：下関市立大学
〈研究助成〉
 - ・科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号：16H03434 平成28年度～平成31年度「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究」研究分担者
 - ・科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号：17K02878 平成29年度～平成31年度「アカデミック・ライティング技術の習得を目指したピア・レスポンスの実証的研究」研究分担者
 - ・科学研究費補助金基盤研究(A) 課題番号：15H01884 平成27年度～平成30年度「読解コーパスの構築による日本語学習者の読解過程の実証的研究」連携研究者
 - ・国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」共同研究員
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉教育課程委員会委員、国際教育交流センター副センター長、ASEAN キャンパス設置 WG メンバー、グローバル教育運営委員会オブザーバー、人文系教育研究組織構想検討 WG 委員
- 〈学会活動〉専門日本語教育学会代表幹事、専門日本語教育学会編集幹事・副編集長、日本語教育学会調査研究推進委員会委員、日本語教育学会審査・運営協力員

山下 仁 (YAMASHITA Hitoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究、言語コミュニケーション論特別研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学、ドイツ語学

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、文法理論研究会、多言語社会研究会、多言語化現象研究会、IVG（国際ゲルマニスト会議）、GAL（応用言語学会）

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・「ヘイトスピーチに関する社会言語学的考察」高田博行・山下仁編著『断絶のコミュニケーション』査読有 ひつじ書房、213-234 ページ、2019 年
- ・「社会言語学から見たこれからの言語・コミュニケーション教育の課題」佐藤慎司・村田晶子編著『人類学・社会学的視点からみた過去、現在、未来のことばの教育:言語と言語教育イデオロギー』査読有、三元社、2018 年、94-119 ページ

〈論文〉

- ・「選抜審査から見た未来共生の未来」『未来共生学』6 2019年、63-72 ページ
- ・『『協調の原理』再考 — 批判的社会言語学の観点からの一考察 —』『言語文化共同研究プロジェクト 2017：批判的社会言語学のメッセージ』(大阪大学大学院言語文化研究科編)、査読無、3-15 ページ、2018年

〈翻訳・翻訳書〉

- ・『バウハウスの人々、回想と告白』ノイマン・エックハート編著(向井周太郎・相沢千加子との共著) みすず書房

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・„Lexikologie im postfaktischen Zeitalter -am Beispiel der japanischen Sprachgeschichte“ (2017年11月19日、イタリアウルビーノ大学にてドイツ語で口頭発表、招待講演)

〈研究助成〉「多言語・多文化社会の言説におけるポライトネスの日独対照社会言語学的考察」科学研究費補助金基盤研究C

[その他の活動]

〈管理運営〉言語コミュニケーション論講座代表、CALL システムワーキング委員

〈その他〉博士教育課程リーディングプログラム「未来共生意のベーター博士課程プログラム」プログラム担当選抜審査主査(2012年10月～2019年3月)

〈学会活動〉日本独文学会常任理事、日本独文学会機関誌語学部門編集委員長、多言語社会研究会編集委員、多言語化現象運営委員

〈社会貢献活動〉大阪大学次世代型市民講座 2018 ドイツ語講師

義永 美央子 (YOSHINAGA Mioko) 教授

<http://mioko-yoshinaga.jp.org>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語コミュニケーション論、言語コミュニケーション論特別研究

〈共通教育担当科目〉専門日本語

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育学、応用言語学

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、言語文化教育研究学会、異文化間教育学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・本田弘之・岩田一成・義永美央子・渡部倫子 (2019) 『日本語教育学の歩き方—初学者のための研究ガイド—改訂版—』大阪大学出版会

〈論文〉

- ・義永美央子・潘英峰 (2019) 「学習支援の経験を通じた支援者の学び—図書館ラーニングサポーターの調査から—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学

生交流』23号、pp.53-64、2019年3月、査読無

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ヴォダック, R.・マイヤー, M. (野呂香代子・神田靖子他訳) (2018)『批判的談話研究とは何か』三元社(第9章「批判的談話研究とソーシャルメディアーメディアの生態の変化における力、抵抗、批判」担当)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・義永美央子 (2018a)「第二言語学習者の発達の可能性を探るーダイナミック・アセスメントの理論と実践」日本語OPI研究会公開講演会、2018年10月27日、於東洋大学、招待
- ・義永美央子・金孝卿・渡部倫子・神吉宇一 (2018b)「日本語教育人材の支援スキルと意識の変容ー日本国内の大学、学校、地域・行政で求められる資質・能力の再検討ー」2018年度日本語教育学会秋季大会パネルセッション、2018年11月24日、於プラサ ヴェルデ、査読有
- ・義永美央子 (2019)「日本語教育学会受託・文化庁委託 中堅研修の概要」日本語教育学会2018年度支部活動(関西支部)・日本語教育振興協会近畿地区教育集会、2019年2月9日、於大阪YMCA、招待

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号:16H03435 平成28年度~平成30年度「多文化共生社会におけるホストパーソン・支援者の接触支援スキルと意識の変容」、研究代表者
- ・科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号:16K13243 平成28年度~平成30年度「ライフコースの視点からみた日本語教師の成長とキャリア支援プログラムの開発」、研究代表者
- ・科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 課題番号:16K13241 平成28年度~平成30年度「外国人の保護者のための学校配布プリントの研究」、研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉人権問題委員会委員長(全学)、ハラスメント対策会議委員(全学)、学生生活委員会委員(全学)、学生支援小委員会委員(全学)、学生生活調査専門委員(全学)、国際教育交流センター教務委員長

〈学会活動〉日本語教育学会大会委員、社会言語科学会査読協力者、言語文化教育研究学会査読協力者、第二言語習得研究会査読委員

〈社会貢献活動〉文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」(事業区分:(2)日本語教育人材の研修カリキュラム開発④日本語教師【中堅】に関する研修)「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修事業」(JCN事業)事業アドバイザー

渡邊 伸治 (WATANABE Shinji) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語運用理論研究

〈共通教育担当科目〉 外国語科目ドイツ語, 国際教養2 (ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 言語学, ダイクシス, 視点

〈所属学会〉 日本独文学会, IVG (国際ゲルマニスト会議)

[研究業績]

〈論文〉

- ・「ニーベルンゲンの歌における gân の用法 ——現代語訳では kommen で訳されている例を対象に——」『言語文化研究』45, pp.125-142, 2019年3月

[その他の活動]

〈管理運営〉 全学学生生活委員会委員, 学生支援委員会委員長

【言語文化教育論講座】

今尾 康裕 (IMAO Yasuhiro) 准教授

<https://sites.google.com/site/casualconcj/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究, 研究実践基礎, 研究発表演習

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading), 専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉 英語学演習 v

[研究活動]

〈研究テーマ〉 言語テスト, 英語教育, アカデミックライティング, テキスト分析ツール開発

〈所属学会〉 日本言語テスト学会, 全国英語教育学会, 中部地区英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 英語コーパス学会

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Going beyond simple word-list creation using CasualConc. *14th American Association for Corpus Linguistics (AACL) Conference, September 22, 2018, at Georgia State University, Atlanta, GA*
- ・ 「CasualConc でできる「あんなこと、こんなこと」ー基本設定からデータの視覚化までー」ワークショップ, 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部メソドロジー研究部会 2018年度第3回研究会・英語コーパス学会ツールと統計手法研究会第1回シンポジウム (合同開催), 北海学園大学 2019年1月13日.
- ・ 「名詞修飾に関する一考察」, 言語と統計 2019, 統計数理研究所. 2019年3月20日.

〈研究助成〉

- ・ 分野別特徴語の共起情報を基にした用例表現検索ツールの開発と論文作成支援への応用 (科学研究補助金・基盤研究 C, 研究代表者, 2015–2018 年度)
- ・ 多分野英語学術論文作成支援ツールの拡張と指導法・教材の開発 (科学研究補助金・基盤研究 B, 研究分担者, 2017–2019 年度)

〈コンピューターアプリケーション開発〉

(開発継続)

- ・ CasualConc 2.1.1 (テキスト分析ツール)
- ・ CasualTranscriber 2.6.1 (文字おこし補助ツール)
- ・ CasualTagger 1.0.2 (テキストタグ付け補助ツール)
- ・ CasualTexttractor 1.0.3 (テキスト処理ツール)
- ・ CasualPConc 1.0 (パラレルコーパス分析ツール)
- ・ CasualTreeTagger 1.0 (TreeTagger GUI フロントエンド)

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本言語テスト学会 Web 公開委員委員長, Asian Association for Language Assessment, コミュニケーション担当理事

〈社会貢献活動〉

「教員のための英語リフレッシュ講座」(大阪大学大学院言語文化研究科公開講座) 講師
文部科学省委託事業「中学校・高等学校における英語教育の根本的改善のための指導方法等に関する実証研究」 データ分析外部専門家委員

岩居 弘樹 (IWAI Hiroki) 教授]

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用マルチメディア論, 言語文化教育論特別研究

〈リーディング大学院担当科目〉 多言語演習 I

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習 (ドイツ語), ドイツ語初級 I, II, 世界は今—サンフランシスコから, 世界の事情を英語で学ぶ

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ICT を活用した外国語教授法, 教育工学

〈所属学会〉 日本教育工学会, 外国語教育メディア学会, 日本デジタル教科書学会, 日本独文学会, 日本独文学会ドイツ語教育部会, 教育システム情報学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 岩居弘樹 「学びの成果をビデオに残す試み」, サイバーメディアフォーラム No19, pp.25–30, 2019 年 2 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・岩居弘樹,『学びの風景』から考える ICT 活用」,iTeachers カンファレンス 2018,2018 年 4 月 29 日, 広尾学園
- ・岩居弘樹,『学びの風景』から考える ICT 活用 -ドイツ語と複言語学習の例」, 教育 IT ソリューション EXPO2018 映像センターブース・特別講演, 2018 年 5 月 17 日, 東京ビッグサイト
- ・岩居弘樹,「ICT を活用した外国語学習 - ドイツ語クラス&多言語演習の実践研究」, 池田市 研究×まちづくり サロン,2018 年 7 月 2 日, 大阪大学会館
- ・岩居弘樹,「ICT を活用した外国語学習 - 実践事例とワークショップ」, 教員のための英語リフレッシュ講座,2018 年 8 月 7 日, 大阪大学全学教育推進機構
- ・岩居弘樹・周宇鳳・李銀淑,「学生のスマホを活用した『複言語学習のすすめ』の試行について」, 日本デジタル教科書学会第 7 回年次大会,2018 年 8 月 19 日, 富山大学
- ・岩居弘樹,「学生の携帯端末・タブレット端末で学習効果を高める」ワークショップ, 大阪大学 FD フォーラム,2018 年 9 月 18 日, 大阪大学コンベンションセンター
- ・大山牧子・岩居弘樹,「複言語習得授業における学生のリフレクションの変容」, 日本教育工学会第 34 回全国大会,2018 年 9 月 28 日, 東北大学
- ・岩居弘樹,「Flipgrid でビデオ撮影を授業に取り入れませんか」, 次世代教員養成フォーラム 2018,2018 年 10 月 8 日, 聖徳学園中学・高等学校
- ・岩居弘樹,「タブレット端末を活用した外国語授業実践のためのワークショップ」, 大阪大学外国語学部 FD 研修,2018 年 10 月 18 日, 大阪大学外国語学部
- ・岩居弘樹,「アクティブな学びを支える教室と ICT ツール」, 教育 IT ソリューション EXPO 2018 関西・映像センターブース・特別講演,2018 年 11 月 9 日, インテックス大阪
- ・岩居弘樹,「ビデオが変わる, ビデオが変える」, 教育 IT ソリューション EXPO 2018 関西・専門セミナー講演,2018 年 11 月 9 日, インテックス大阪
- ・岩居弘樹,「モバイルデバイスを活用した授業実践,iPad Cafe in Okinawa,2018 年 11 月 16 日, 沖縄大学 FD 研修会
- ・岩居弘樹,「とりあえず、やってみる！- キーワードは『遊』かも……!?', 近畿学校視聴覚教育研究大会 基調講演,2018 年 11 月 22 日, 神戸市総合教育センター
- ・岩居弘樹,「多言語演習」ワークショップ, ロイロ英語ユーザー会,2018 年 11 月 23 日, 広尾学園
- ・大山牧子・李銀淑・岩居弘樹,「医療系大学における複言語修得授業の実施と評価」, 日本教育工学会研究会,2019 年 3 月 9 日, 福井大学
- ・岩居弘樹・李銀淑・大山牧子,「看護系大学における『複言語学習のすすめ』の試み」, JACTFL 第 7 回シンポジウム,2019 年 3 月 10 日, 上智大学
- ・岩居弘樹,「Flipgrid でビデオ交流」, FLExICT,2019 年 3 月 24 日, 大阪工業大学
(研究助成)
- ・科研費基盤研究(B), 音声認識とビデオ撮影による自己省察を基礎とした ICT 支援複言語

学習モデルの研究, 研究代表者.

- ・科研費基盤研究(C), 小中高大連携を見据えた外国語教育と ICT の接点を探る研究ならびにアーカイブの開発, 研究分担者.

[その他の活動]

〈社会貢献活動〉 英語リフレッシュ講座講師

大谷 晋也 (OTANI Shinya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化教育論 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合日本語、専門日本語、多文化コミュニケーション (日本語)、多文化コミュニケーションセミナー、International Communication Seminar (Japanese)

〈学部教育担当科目〉 言語文化教育論 (F)・(G)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 多文化・グローバル教育としての異言語 (日本語) 教育、言語教育政策、外国人医療支援に関する諸問題、日本古典文学データベース

〈所属学会〉 日本語教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「日本語・グローバル理解演習」のコンセプトと設計の指針『多文化社会と留学生交流』第 23 号 (大阪大学国際教育交流センター) 2019.3 (共著)

〈翻刻・校訂〉

- ・平安文学ライブラリー『枕草子 (三巻本)』(日本文学 Web 図書館 (古典ライブラリー)) 2019.3 (共編)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「国内の大学における日本語教員養成課程の位置付けに関する実態調査」(日本教育工学会 第 34 回全国大会) 2018.9 (共同発表)
- ・「在住外国人への災害対応と医療 ～被災地の経験と教訓から～」外国人市民への保健・医療サポートセミナー2019 (医療事務連絡会 (箕面市等)) 2019.1 (共同でコーディネーター)

〈研究助成〉

- ・「EPA 看護師候補者のためのオンライン漢字語彙教材の開発」科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者
- ・「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 国際教育交流センター教授会構成員 (専任)、外国語学部教授会構成員、マル

チリングガル教育センターカリキュラム委員会委員、情報化推進会議委員、ODINS 運用部
会委員、情報セキュリティ連絡会委員、未来共生イノベーター博士課程プログラム担当教
員〈社会貢献活動〉みのお外国人医療サポートネット運営委員、医療事務連絡会（箕面市
等）委員

岡田 悠佑 (OKADA Yusuke) 准教授

<https://sites.google.com/site/liloarise2690/>

<https://osaka-u.academia.edu/YusukeOkada>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究 A, B

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 第二言語語用論、会話分析、英語教育

〈所属学会〉 American Association for Applied Linguistics, 大学英語教育学会、日本教育工学
会、社会言語科学会

[研究業績]

〈論文〉

- Okada, Y. (2019). Discursive construction of “antisocial” institutional conduct: Microanalysis of Takata’s failure at the U.S. congressional hearings. *Journal of Pragmatics*, 142, 105-115. DOI: 10.1016/j.pragma.2019.01.013 (査読有・国際誌)
- 岡田悠佑 (2018). ラベルの妥当性と物語の適切化-第2言語での採用面接における物語連鎖. 言語文化共同研究プロジェクト, 応用会話分析研究: 制度的会話での質問-応答連鎖, 13-22 (査読無)
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- Okada, Y. (2018, May). *Storytelling practices in L2 job interviews*. 2nd CAN-Asia Symposium on L2 Interaction. Kyoto: Kyoto Women's University.
- Okada, Y. (2018, December). *A conversation analytic study of pedagogically and socially preferred feedback practices in EAP classrooms*. 第1回 JAAL in JACET 学術交流集会. 東京: 高千穂大学

〈研究助成〉

- 科研費若手研究「学術目的のための英語コミュニケーション活動への口頭フィードバック手法のモデル化」

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリングガル教育センター専任教員 (学内派遣)、設備・施設マネジメント
委員会委員、英語リフレッシュ講座 WG 委員

〈学会活動〉 Manuscript reviewer (American Association for Applied Linguistics)

〈社会貢献活動〉英語リフレッシュ講座講師、Manuscript reviewer for *Applied Linguistics* (OUP),
Manuscript reviewer for *The Modern Language Journal* (Blackwell).

郡 史郎 (KORI Shiro) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~caris/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉博士前期課程：言語表現生態論（音声表現の多様性とプロソディー），
博士後期課程：言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉国際コミュニケーション演習（イタリア語）

〈学部教育担当科目〉イタリア語3（1年次），イタリア語14（2年次），イタリア語特別演習（3-4年次），イタリア語学講義（3-4年次）

[研究活動]

〈研究テーマ〉音声コミュニケーション

〈所属学会〉日本音声学会，日本語学会，社会言語科学会，日本音響学会，日本方言研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・郡史郎「終助詞類のアクセントとイントネーション—『よ』『か』『の』『な』『でしょ(う)』『じゃない』，とびはね音調の『ない』—」『音声言語の研究12』13-26.
- ・郡史郎「じょうずな読みとアクセント，イントネーション—非母語話者の読みの改善例—」『言語文化研究』45, 179-190.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・郡史郎「声の高低の幅・声域と『じょうず』な読み」近畿音声言語研究会，西宮市大学交流センター，2018年7月7日.
- ・郡史郎「日本語を母語とする大学生が持つ英語の発音イメージと日本語についての『正しい発音』観」近畿音声言語研究会，西宮市大学交流センター，2018年11月3日.

[その他の活動]

〈管理運営〉イタリア語部会主任，マルチリンガル教育センターカリキュラム委員，紀要編集委員会委員，マルチメディア外国語教育委員会委員

小口 一郎 (KOGUCHI Ichiro) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化教育論、言語表現生態論

〈共通教育担当科目〉実践英語、専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉言語文化教育論（J）

[研究活動]

〈研究テーマ〉イギリス・ロマン主義、アカデミックライティング

〈所属学会〉 イギリス・ロマン派学会、日本英文学会、日本英文学会中部支部、言語文化学会、大阪大学英文学会、名古屋大学英文学会、e-Learning 教育学会、大学英語教育学会 (JACET)

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・小ロー郎「William Wordsworth, 'Steamboats and Railways' —— 「人間の時代」と環境」イギリス・ロマン派講座. 日本女子大学. 2018年6月30日.

〈研究助成〉

- ・「トランスアトランティック・エコロジー —— 環境文学／思想の還流と変容」科学研究費助成事業（学術研究費補助金）（基盤研究（C）（一般））15H03189（研究分担者）

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガル教育センター派遣、マルチリンガル教育開発オフィス長、入試委員、前期日程試験科目別連絡委員会外国語責任者、英語入試問題検討 WG 主査、入試委員会委員、出題検証小委員会委員、教育情報化 WG 委員、CALL システム WG 委員、公開講座運営委員、国立7大学 CU 委員会委員

〈学会活動〉 イギリス・ロマン派学会会長・理事、e-Learning 教育学会編集委員長・理事、名古屋大学英文学会編集委員長、言語文化学会委員長

日野 信行 (HINO Nobuyuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化教育論、言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 「国際英語」教育

〈所属学会〉 International Association for World Englishes、日本「アジア英語」学会、大学英語教育学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・Hino, Nobuyuki. Designing CELFIL (content and ELF integrated learning) for EMI classes in higher education in Japan. In K. Murata (Ed.) *English-medium instruction from an English as a lingua franca perspective: Exploring the higher education context* (pp.219-238). London: Routledge. 2018年8月.
- ・日野信行. 「母語話者英語と非母語話者英語：非母語話者英語の正当性を主張する論理」本名信行・竹下裕子(編)『世界の英語・私の英語：多文化共生社会をめざして』(pp.16-26). 桐原書店. 2018年8月.
- ・日野信行. 「ニホン英語の論理」本名信行・竹下裕子(編)『世界の英語・私の英語：多文化

共生社会をめざして』(pp.123-132). 桐原書店. 2018年8月.

〈論文〉

- Hino, Nobuyuki. World Englishes education: Toward multicultural symbiosis.” 言語文化共同研究プロジェクト 2017『新しい英語教育のアプローチ』(pp.1-14). 大阪大学大学院言語文化研究科. 2018年5月.
- Hino, Nobuyuki. An EIL pioneer far ahead of his time. *World Englishes*, 37(3), 484-491. 2018年9月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- Hino, Nobuyuki. Teaching World Englishes for multicultural symbiosis. The 23rd Conference of the International Association for World Englishes, Ateneo de Manila University, Quezon City, Philippines, 2018年6月1日. (基調講演)
- Hino, Nobuyuki & Oda, Setsuko. Teaching English to young children from EIL perspectives: A case study in Japan. The 23rd Conference of the International Association for World Englishes, Ateneo de Manila University, Quezon City, Philippines, 2018年6月1日.
- Hino, Nobuyuki. Teaching EIL from a post-native-speakerist perspective in an Asian context: 35 years of practice in Japan. The 16th Asia TEFL International Conference, University of Macau, 2018年6月29日. (招待講演).
- Hino, Nobuyuki & Oda, Setsuko. Appropriate methodology for teaching ELF: From actual examples. The 11th International Conference of English as a Lingua Franca, King's College London, 2018年7月4日.
- 日野信行. 「EIL (国際英語) 教育の意義と方法論」 教員のための英語リフレッシュ講座 (平成 30 年度大阪大学大学院言語文化研究科公開講座) 大阪大学大学院言語文化研究科. 2017年8月7日.
- Hino, Nobuyuki. EIL education for the Asian Expanding Circle. The 23rd Conference of the Pan-Pacific Association of Applied Linguistics. Juntendo University, Tokyo, Japan, 2018年8月22日. (基調講演).
- Hino, Nobuyuki. Prospects for the development and diffusion of original Englishes in the Expanding Circle. Symposium World Englishes and English education, the 23rd Conference of the Pan-Pacific Association of Applied Linguistics. Juntendo University, Tokyo, Japan, 2018年8月23日. (招待シンポジウム).
- Hino, Nobuyuki & Oda, Setsuko. Non-native language teachers for young learners. The 12th International Symposium on Japanese Language Education and Japanese Studies, The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong SAR, 2018年12月8日.
- Hino, Nobuyuki. Liberating language users from native speaker norms (言語使用者を母語話者の規範から解放する言語教育). The 12th International Symposium on Japanese Language Education and Japanese Studies, The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong SAR, 2018

年 12 月 9 日. (基調講演).

〈研究助成〉

- ・日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) 課題番号 18K00738 「大学における内容言語統合型学習(CLIL)による国際英語(EIL)教授法の開発」2018 年度～2022 年度(研究代表者)

[その他の活動]

〈管理運営〉 適塾記念センター兼任教員、図書館委員会委員(全学)、言語文化教育論講座代表者(研究科内)、「教員のための英語リフレッシュ講座」ワーキンググループ委員(研究科内)

〈学会活動〉 *World Englishes* (International Association for World Englishes 学会誌, Wiley) 編集諮問委員、*Intercultural Communication and Language Education* シリーズ (Springer) 編集委員、*Routledge Advances in Teaching English as an International Language* シリーズ (Routledge) 国際諮問委員、大学英語教育学会賞・学術出版物選考委員会分野長、大学英語教育学会社員、大学英語教育学会 ELF 研究会副代表

〈学内共同研究代表者〉言語文化共同研究プロジェクト 2017 『新しい英語教育のアプローチ』代表者、言語文化共同研究プロジェクト 2018 『新しい視点からの英語教育』代表者

難波 康治 (NAMBA Koji) 准教授

<http://chiba2014.jimdo.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用マルチメディア教育論 A・B

〈共通教育担当科目〉 International Communication Seminar (Japanese) 103, International Communication Seminar (Japanese) 503

〈国際交流教育担当科目〉 Japanese JA100, Japanese JA500

〈大学院学際融合担当科目〉学際融合教育科目上級日本語 (アカデミック・プレゼンテーション)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 日本語教育における IT 利用、接触場面における話題マネジメント

〈所属学会〉 日本語教育学会、社会言語科学会、日本デジタル教科書学会、韓国日本語文化学会

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「社会参加のためのオンライン日本語教材-『ミアンのチャレンジ日記』」文化庁日本語教育大会京都大会 (簡佩鈴、立川真紀絵と共同発表) 2018.10.14. 京都工芸繊維大学
- ・「オンラインとリアルをつなぐ新しい日本語学習環境『OU 日本語ひろば』の構築」(義永美央子と共同発表) 2018.12.18, 第 3 回豊中地区研究交流会

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金 基盤 C (研究代表者) 「ICT 学習支援オンラインアカデミック日本語教育の開発と実践研究」(研究期間 平成 27 年度～平成 30 年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉教育情報化ワーキンググループ、CALL システムワーキンググループ

〈学会活動〉韓国日本言語文化学会海外理事

〈社会貢献活動〉公益信託井内留学生奨学基金 運営委員会委員

西口 光一 (NISHIGUCHI Koichi) 教授

<https://koichimikaryo.blogspot.jp>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究、言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉総合日本語 JA300

〈学部教育担当科目〉Psychology of language and Japanese language acquisition

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育学、言語心理学

〈所属学会〉日本語教育学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・単著 『NIJ: テーマで学ぶ中級日本語』くろしお出版

〈論文〉

- ・共著 「『日本語・グローバル理解演習』のコンセプトと設計の指針」、多文化社会と留学生交流第 23 号 pp.29-34

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・日英語における発話構築の基底特性 — 終助詞等に注目した日英の対話論的対照研究から、第 5 回カーディフ大学応用言語学シンポジウム、英国カーディフ大学

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤 C 課題番号 16K02811 「ことば行為についての対話論的対照研究 — 対面的相互行為におけることばの日英研究」平成 28 年度～平成 31 年度 (研究代表者)

〈調査活動〉

[その他の活動]

〈管理運営〉評価委員会委員 (国際教育交流センター)

〈学会活動〉国立大学日本語教育研究協議会代表理事、日本語教育学会大会委員と査読委員

西田 理恵子 (Rieko NISHIDA) 准教授

<http://www.rienishi.jimdo.com>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究論 A・B

〈共通教育担当科目〉 大学英語 (Reading)、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 応用言語学研究 (動機づけ、情意要因)、英語教育、方法論

〈所属学会〉 大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、全国英語教育学会、小学校英語教育学会、Psychology of Language Learning

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

〈論文〉

- ・ 西田理恵子 (2018). 大学英語学習者における内容と言語の融合：CBI, CLIL, EMI の可能性を探って. 大阪大学大学院言語文化研究科プロジェクト.
- ・ 西田理恵子. (2018). 日本人英語学習者の時間の経過に伴う動機づけと情意の変化：教育と研究の視点から. 「動機づけ研究最前線」『英語教育』大修館書店.

〈口頭発表〉

【国際学会】

- ・ R.Nishida, D.Lasagabaster, S.Mercer and A.Thompson. (2018). The psychology of CLIL and EMI: A comparative study of Spain, Austria, Japan and U.S.A. Psychology of Language Learning. Invited Symposia. Tokyo, Japan. June 7-10. Invited Symposia.
- ・ R. Nishida. (2018). A three-year longitudinal study of proficiency, motivation, and affect in language learning in the Japanese EFL context. Applied Linguistic Association of Australia (ALAA). Nov.26-28. University of Wollongong, Australia.
- ・ R.Nishida. (2019). A longitudinal study of language proficiency and motivational changes for Japanese elementary and secondary school students in the Japanese EFL context. Poster Presentation. Hawaiian International Conference on Education. January 5-8. Hilton Hawaiian Village Waikiki Beach Resort. Honolulu. Hawaii.
- ・ R.Nishida. (2019). Content and Language Integration in the Language Classroom in the Japanese University EFL Context. Paper Presentation. Hawaiian International Conference on Education. January 5-8. Hilton Hawaiian Village Waikiki Beach Resort. Honolulu. Hawaii.
- ・ R.Nishida. (2019). Enhancement of Japanese university EFL learners' motivation and affect to explore their global perspectives in content and language learning. International Perspectives on Foreign Language Teaching in the Digital Age. March 24-27. University of Munch. Germany.

【国内学会】

- ・ 西田理恵子. 大学英語教育における動機づけ研究と教育実践：内容と言語を融合して. 島根大学教育センター. 招待講演. 2019年2月1日.
- ・ 西田理恵子. 小学校英語研究のための統計分析中級編. 小学校英語教育学会研究推進委員会主催. 立命館大学. 招待講演. 小学校英語教育学会研究推進委員会. 2019年1月29日.

- ・西田理恵子. 中学校段階における言語運用能力と情意面に関する実証研究. 全国英語教育学会. 京都大会. 龍谷大学. 8月25日.
- ・西田理恵子. 小学校から中学校にかけての縦断調査: 言語運用能力と情意面に焦点を置いて. 小学校英語教育学会. 長崎大学. 7月27日-28日.
- ・西田理恵子. 時間軸を取り入れた動機づけの変化, 動機づけ研究会 (関西). 大阪大学言語文化研究科. 9月25日.
- ・西田理恵子. **Content and Language from motivational perspectives. Symposium.** 基盤研究 B. 科学研究費助成金シンポジウム企画. 大阪大学大学院言語文化研究科. 3月3日.
〈研究助成〉
- ・平成29年度～平成33年度 (代表) 「大学英語学習者を対象とした内容言語統合型学習に関する縦断調査」 科学研究費助成金 基盤研究 B 17H02359
- ・平成27年度～平成30年度 (代表) 「複雑性理論を基盤とした学習者の言語能力と動機づけの変化に関する縦断的調査」 科学研究費助成金 挑戦的萌芽研究 15K12907
〈調査活動〉
- ・枚方市西宮中学校の協力のもと、中学校1年生から中学校3年生を対象に中学生の動機づけと非動機に関する調査を行っている。
[その他の活動]
〈学会活動〉
- ・Psychology of Language Learning (PLL3) 国際学会大会実行委員、小学校英語教育学会研究推進委員、外国語教育メディア学会査読員、関西英語教育学会機関誌編集委員、動機づけ研究会運営委員.
- ・2018年6月、早稲田大学にて国際学会 Psychology of Language Learning (PLL3)の企画・運営を行った。400名近い参加者と約30カ国からの研究者・教育者・学生たちを迎えて、これまでにない規模での国際学会を主催した。
〈報道〉
- ・西田理恵子. 英語学習をもっと楽しく、興味深く –教育現場の声を分析し、新たな指導法に還元–。大阪大学 RESOU. 2018年10月掲載。
〈社会貢献活動〉
- ・島根大学教育センターFD研修、放送大学対面授業講師、小学校英語教育学会研究推進委員会主催ワークショップ講師、科学研究費助成金基盤研究 B シンポジウム企画・運営.

村上スミス アンドリュー (MURAKAMI-SMITH, Andrew) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語表現生態論

〈共通教育担当科目〉 英語 (Speaking)、英語 (Speaking)上級、英語 (Reading)、英語 (Integrated Course)、専門英語基礎

〈国際交流科目担当科目〉近代・現代日本文学、近代日本文学における大阪

[研究活動]

〈研究テーマ〉近代・現代日本文学、日本の地域言語文化、翻訳理論

[その他の活動]

〈管理運営〉サイバーメディア・センター兼任、全学国際交流委員会傘下の OUSSEP 運営
Sub-WG 委員

〈社会貢献活動〉英語リフレッシュ講座講師（2018.8.9）、サイバーメディア・センター次世代型市民講座講師（2018.10.27~2018.11.10）、国際交流科目オリエンテーション・FD 講師（2018.9.28）

力武 京子 准教授

<http://www.k2r.org/malte/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉異言語教育方法論

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級 I, II, ドイツ語中級、地域言語文化演習

〈学部教育担当科目〉言語文化教育論（外国語学部）

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語教育(Deutsch als Fremdsprache)、ICT を活用した外国語教育、多文化・多言語共生社会のコミュニケーション

〈所属学会〉日本独文学会、日本独文学会教育部会、ドイツ語情報処理学会

〈論文〉

・外国語学習の ICT 活用とアクティブラーニングの実現に向けて

〈翻訳・翻訳書〉

・ヘルベルト・ブロムシュテット自伝、「音楽こそわが天命」(アルテス・パブリッシング)

(単訳)

【言語情報科学講座】

岩根 久 (IWANE Hisashi) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~iwane/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉コーパス言語学研究、言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級、地域言語文化演習（フランス語）

〈教科書・参考書〉

・『フランス語動詞活用ドリル虎の穴』、白水社、2018年5月

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フランス文学・言語資料処理

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、日本ロンサール学会、
e-Learning 教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「コーパス分析ソフト CasualConc の活用(2)―一例として『恋愛詩集』(1552)を中心に―」、
『ロンサール研究』・日本ロンサール学会、31号、pp.99-104、2018年8月

〈書評・論評・紹介〉

- ・「フランス語初級文法学習のための環境」、『大阪大学サイバーメディア・フォーラム』・大
阪大学サイバーメディアセンター、第13巻、pp.15-18、2019年2月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「語彙計量的手法を日常のテキスト分析に(3)―共起について―」、日本ロンサール学会
2018年度大会、同志社びわこリトリートセンター、2018年8月13日
- ・「フランス語中級講読枠の授業におけるロイロノート・スクールを用いたグループプレゼ
ンの実践」、FLEXICT Expo 2018：外国語教育・ICT・Active Learning・Classroom Tips の融
合、大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー、2019年3月24日

〈研究助成〉

- ・基盤研究(C)(H29～H32 大阪府立大学)「観光業の苦情対応における日英比較の研究 ―
語用論を活かした ESP 教材の開発―」(研究代表者 岩井千春) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 超域イノベーション博士課程プログラムプログラム委員会委員、学務情報シス
テム運用WG委員、ネットワーク運用管理委員会委員

〈学会活動〉 日本ロンサール学会会長、日本ロンサール学会編集委員、e-Learning 教育学会
副会長

越智 正男 (OCHI Masao) 准教授

<https://sites.google.com/site/masaoochi/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 理論言語学研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉 格の交替現象、名詞句の比較統語論

〈所属学会〉 日本言語学会、日本英語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Ochi, Masao and Asuka Saruwatari, “Nominative/Genitive Conversion in (In)dependent Clauses in

Japanese” *Proceedings of the 10th Workshop on Altaic Formal Linguistics (WAFL10)*, pp. 191-202, MITWPL, 2018 年 6 月.

- Ochi, Masao. “Remarks on Labels, Agreement, and Pro-form *no* in Japanese,” 『大阪大学言語文化研究科研究プロジェクト 2017 自然言語への理論的アプローチ』, pp. 21 - 30, 2018 年 6 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- “Labeling Algorithm, Agreement, and Pro-form *no* in Japanese,” 2018 Annual Western Conference on Linguistics, California State University, Fresno, 2018 年 12 月 1 日.

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者: 「名詞項パラメータ化仮説の検証に基づく名詞項構造の普遍的性質の解明」 日本学術振興会 (平成 29 年 4 月 ~)

[その他の活動]

〈管理運営〉 言語文化研究科 (豊中地区) 過半数代表者, 科研費相談員

〈学会活動〉 日本言語学会夏期講座 (生成文法中上級) 講師 (2018 年 8 月 20 日 ~ 8 月 25 日), 日本言語学会大会運営委員 (2018 年 6 月まで), 日本言語学会大会発表賞審査委員, 国立国語研究所公募型共同研究プロジェクト (日本語から生成文法理論へ: 統合理論と言語獲得) プロジェクトメンバー, 国際学術雑誌及び国際学会の応募要旨査読

坂内 千里 (SAKAUCHI Chisato) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語情報科学論、言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉 中国語初級、中国語中級選択、国際コミュニケーション演習 (中国語)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 中国の古い字書 (特に『説文解字』の注釈研究)

〈所属学会〉 日本中国学会、東方学会

[研究業績]

〈論文〉

- 『説文解字繫傳』「部紱篇」考、大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化研究』45、pp.81-101、2019 年 3 月

[その他の活動]

〈管理運営〉 中国語部会主任、財務会計委員会委員、広報・社会貢献検討委員会委員

田畑 智司 (Tabata, Tomoji) 准教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 コーパス言語学研究, 言語情報科学特別研究特別研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading), 実践英語, 専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉 言語情報科学論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 Digital Humanities (デジタルヒューマニティーズ), Stylometry, Authorship Attribution, 機械学習を応用した近・現代英語散文の文体研究

〈所属学会〉 The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), The European Association for Digital Humanities (EADH), Association for Computers and the Humanities (ACH), Canadian Society for Digital Humanities / Société canadienne des humanités numériques (CSDH/SCHN), Australasian Association for Digital Humanities (aaDH), Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会), The Poetics and Linguistics Association (PALA), Dickens Fellowship, 英語コーパス学会, 情報処理学会人文学とコンピュータ研究会(SIG-CH)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・田畑 智司 編『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ 2017』(大阪大学大学院言語文化研究科 言語文化共同研究プロジェクト 2017 成果報告書) 2018 年.

〈論文〉

- ・ Tomoji Tabata, Mapping Dickens's Style in the Network of Words, Topics, and Texts 『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ 2017』(大阪大学大学院言語文化研究科 言語文化共同研究プロジェクト 2017 成果報告書) pp. 51-60, 2018 年.
- ・ 田畑 智司 「Digital Humanities: デジタルで拡張する言語文化研究」『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ 2017』(大阪大学大学院言語文化研究科 言語文化共同研究プロジェクト 2017 成果報告書) pp. 61-90, 2018 年.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Tomoji Tabata, Lexical Diversity in Classic British Fiction, Osaka-Würzburg Collaborative Workshop: Cross-Linguistic Perspectives on Lexical Diversity in Literary Texts (Funded by the JSPS and DAAD), 5 April 2018, Osaka University.
- ・ Tomoji Tabata, Dickens in Vector Space: Word Embeddings and Semantic Profiling of Style, PALA 2018 (Poetics And Linguistics Association Annual International Conference) "Styles and Methods", 25-28 July 2018, University of Birmingham, UK.
- ・ Tomoji Tabata, Collaborative Texts under a Stylometric Microscope: Investigating Texts of Mixed Authorship, JAECS 44th Annual Conference (英語コーパス学会第 44 回大会) 2018 年 10 月 6-7 日 東京理科大学神楽坂キャンパス.
- ・ 田畑 智司 「計量的手法で探るイギリス小説の文体」(基調講演) 日本文体論学会第 114 回大会 2018 年 10 月 20 日 神戸大学.
- ・ 田畑 智司 「デジタルが変える「読み」-テキスト, データ, ディスタントリーディング」(招待講演) Gale シンポジウム 2018 『デジタル人文学への誘い』 2018 年 12 月 12 日 東

京国際フォーラム.

- ・田畑 智司「文体研究のための Corpus Search」(招待講演) 2019年2月20日 福岡女学院大学.
- ・田畑 智司「Classic British Fiction における身体部位表現: 語彙, *n*-grams, トピック」Body language 研究会 2019年2月27日 熊本学園大学.
- ・田畑 智司 Word Vectors and Semantic Style in Classic Fiction 「言語研究と統計 2019」2019年3月20-21日 大学共同利用法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所.
- ・Tomoji Tabata, Corpus approaches to semantic style: Body language, *n*-grams, and topics, Osaka Symposium on Corpus Stylistics, 28 March 2019, Osaka University.

〈研究助成〉

- ・2018-2021 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「機械学習によるコーパス文体論分析モデルの提示とそれに基づく国際連携基盤の創成」研究代表者
- ・2017-2018 年度日本学術振興会二国間交流事業ドイツ(DAAD)との共同研究「文学テキストにおけるコンプレキシティの計量言語学的研究」日本側研究代表者
- ・2016-2018 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「身体表現における英語表現史: 英米文学作品をコーパスとして」研究分担者 (研究代表者: 安田女子大学・高口 圭輔)

[その他の活動]

〈学会活動〉 The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO) Steering Committee, ADHO Standing Committee on Awards, President of the Japanese Association for Digital Humanities, 英語コーパス学会理事, 『英語コーパス研究』編集長

ホドシチェク ボル (HODOŠČEK Bor) 准教授

<https://nlp.lang.osaka-u.ac.jp/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 自然言語処理

〈共通教育担当科目〉 実践英語、英語(Speaking)、英語上級(Speaking)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 自然言語処理、コーパス言語学、日本語作文支援システム

〈所属学会〉 言語処理学会、Japanese Association for Digital Humanities (JADH) & Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・専門著書, 大学と社会をつなぐライティング教育, 村岡 貴子, 鎌田 美千子, 仁科 喜久子, くろしお出版, ISBN 9784874247839, 2018年11月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・八代集「桜の花」歌における作者の分類, 山元 啓史, ホドシチェク ボル, じんもんこん

2018, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, 175-180, 2018年12月, 会議報告/
口頭発表

- Converting the Aozora Bunko into a corpus suitable for linguistic research, Hodošček Bor, JADH 2018 "Leveraging Open Data", 61-63, 2018年09月, 国際会議 (proceedings あり)
 - A study on the distribution of cooccurrence weight patterns of classical Japanese poetic vocabulary, Hilofumi Yamamoto, Hodošček Bor, JADH 2018 "Leveraging Open Data", 179-182, 2018年09月, 国際会議 (proceedings あり)
 - 日本語共起表現検索システム Natsume におけるジャンル別分散表現, ホドシチェク ボル, 第31回日本語教育連絡会議, 2018年09月, 会議報告/口頭発表
〈研究助成〉
 - 基盤研究(C)『日本語作文支援システムのための複合機能表現の獲得と用法の分析』(2018-2020) (代表: 阿辺川武) (研究課題番号 18K00703) 研究分担者
 - 基盤研究(C)『歌ことばの効果的可視化技術と通時的言語変化記述に関する基礎研究』(2018-2021) (代表: 山元啓史) (研究課題番号 18K00528) 研究分担者
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉 部局情報システムセキュリティ責任者、部局ネットワーク運用管理責任者、コンテンツ管理責任者、キャンパスメールサービス管理者

三藤 博 (MITO Hiroshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語構造論、言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉 フランス語初級、フランス語中級、フランス語初級選択、フランス語中級選択

[研究活動]

〈研究テーマ〉 理論言語学、フランス語学

〈所属学会〉 日本言語学会、日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本英語学会

[研究業績]

〈論文〉

- 「方法論的自然主義と意味論」、『自然言語への理論的アプローチ』、大阪大学言語文化研究科、2018年、pp. 71-78。

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本フランス語学会編集委員

〈社会貢献活動〉 大阪府立大手前高等学校サイエンス探究最終発表会講評担当 (2018年7月14日実施)、大阪府立大手前高等学校「大学教員による特別集中セミナー」講師 (2018年12月7日実施)

三宅 真紀 (MIYAKE Maki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 コーパス言語学研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading), 専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉 計算言語学, コーパス言語学, 新約聖書学

〈所属学会〉 情報処理学会準会員 (人文科学とコンピュータ研究会), Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会)

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- Classification of the Greek NT Editions Based on Lexical Diversity, Osaka-Würzburg Collaborative Workshop: Cross-Linguistic Perspectives on Lexical Diversity in Literary Texts, 大阪大学, 2018年4月.
- 「シナイ写本の写字識別の試み: 大文字エプシロンおよびニューの字体に注目して」, 言語研究と統計 2019, 統計数理研究所, 2019年3月.

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金基盤研究 (S) 「仏教学新知識基盤の構築—一次世代人文学の先進的モデルの提示 (下田正弘代表)」 研究連携者

[その他の活動]

〈管理運営〉 データビリティフロンティア機構兼任, ネットワーク運用管理委員会委員, キャンパス・ハラメント問題小委員会委員

〈学会活動〉 人文科学とコンピュータ研究会運営委員, JADH 選挙管理委員

宮本 陽一 (MIYAMOTO Yoichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 理論言語学研究、言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉 英語 (Reading)

〈学部教育担当科目〉 言語学概論 A

[研究活動]

〈研究テーマ〉 Disjunctive Phrases の意味構造、Fragment Answers の統語構造、Argument Ellipsis の L2・L3 獲得

〈所属学会〉 日本英語学会、日本言語学会、日本英文学会、関西言語学会

[研究業績]

〈著書、共著〉

- Miyamoto, Yoichi and Kazumi Yamada. On the Development of L3 Spanish in the Grammar of

L1 Japanese Learners with L2 English. In Elena Babatsouli, ed., *Crosslinguistic Research in Monolingual and Bilingual Speech*, ISMBS, Chania, 147-163, 10/2018.

〈論文〉

- Oseki, Yohei and Yoichi Miyamoto. Some Consequences of Simplest Merge and ϕ -defectiveness in Japanese. *Proceedings of the 10th Workshop on Altaic Formal Linguistics*, MITWPL, 217-228, 09/2018.
- Miyamoto, Yoichi. On an Alternative to Maki *et al*'s (2015) Account on Mongolian NOM-GEN Alternation and its Implication for the Structure of Mongolian Relative Clauses. 『言語文化共同研究プロジェクト2017 自然言語への理論的アプローチ』大阪大学言語文化研究科, 79-88, 05/2018.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- Yamada, Kazumi and Yoichi Miyamoto. On the Interpretation of Null Arguments in L2 Japanese by German Speakers. 2018 Annual Meeting of the Linguistic Association of Great Britain, 09/13/2018, University of York.
- Yamada, Kazumi and Yoichi Miyamoto. Accounting for Null Argument Interpretation by L2/L3 German by Speakers of English and Japanese. Generative Approaches to Language Acquisition North America Conference – 8, 09/28/2018, Indiana University.
- Tamura, Ayaka, Yoichi Miyamoto and Uli Sauerland. Rescue Mo and Ka: the PPI Status of Japanese Connectives. Workshop on Altaic Formal Linguistics 14, 10/19/2018, MIT.
- Bade, Nadine, Ryota Nakanishi, Frank Sode, Yasuhiro Iida, Shun Ihara, Mika Ebara, Hajime Ono, Yoichi Miyamoto and Uli Sauerland. Japanese Particles Wa and Ga as Scope Markers of EXH. Workshop on Altaic Formal Linguistics 14, 10/20/2018, MIT.
- Miyamoto, Yoichi. On Nominal Internal Distributive Interpretation in Japanese Fragment Answers. The 5th Workshop of the NINJAL Collaborative Research Project “The Generative Perspectives on the Syntax and Acquisition of Japanese,” 12/02/2018, Tohoku University.

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金（基盤研究 C：研究代表者）「生成文法の枠組みにおける量化に関する方言研究」日本学術振興会（04/2018–03/2021）
- 科学研究費補助金（基盤研究 B：研究分担者）「文法性の錯覚から見た第二言語処理の解明と、その英語教育への応用」日本学術振興会（04/2017–03/2020）
- 科学研究費補助金（基盤研究 C：研究分担者）「名詞項パラメータ化仮説の検証に基づく名詞項構造の普遍的性質の解明」日本学術振興会（04/2017–03/2020）
- 大阪大学国際共同研究促進プログラム（タイプ A：研究代表者）「言語と論理的思考の発達に関する研究」大阪大学（04/2018–03/2021）

[その他の活動]

〈管理運営〉教育課程委員会委員（04/2018–03/2019）、大学院教務委員会委員長（04/2018–

03/2019)、情報系学部構想検討WG(07/2018ー)

〈学会活動〉日本言語学会評議員、日本言語学会夏期講座委員会委員長、ISMBS 2019 International Scientific Committee、Journal of East Asian Linguistics Editorial Board、Journal of Monolingual and Bilingual Speech Editorial Board、その他、国際学会発表要旨・学術雑誌論文査読、大阪大学国際共同研究促進プログラム「言語と論理的思考の発達に関する研究」に関わる研究会企画・運営.

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター客員教授

山本 武史 (YAMAMOTO Takeshi) 准教授

[教育活動]

〈学部教育担当科目〉英語2(作文)、英語3(LL)、英語学演習、英語学講義、英語学(上級英語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語における語の音韻構造(特に、音節構造と強勢)

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本音韻論学会、日本音声学会、日本言語学会、International Phonetic Association

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・山本武史「英語における /s/ の特異性と音節初頭子音連続」、2018年度言語文化共同研究プロジェクト「音声言語の研究」研究会、2019年3月4日、大阪大学豊中キャンパス
〈研究助成〉

・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))「分節素の重さとソノリティーの統合」(17K02832、2017年度~2019年度)研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉設備・施設マネジメント委員、図書委員(以上、講座内、後期のみ)

〈学会活動〉関西言語学会編集委員、『京都大学言語学研究』編集委員

由本 陽子 (YUMOTO Yoko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学研究、言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉語彙意味論、語形成論

〈所属学会〉日本英語学会、日本言語学会、日本語文法学会、関西言語学会、日本英文学会、日本英文学会関西支部

[研究業績]

〈論文〉

- ・「日本語の複合動詞研究の回顧と再考」三藤博 (編)『言語文化共同研究プロジェクト 2017 自然言語への理論的アプローチ』2018.5, pp. 99-108. 大阪大学大学院言語文化研究科
- ・「語彙・構文の文法現象における名詞の役割」(工藤和也・小藁哲哉とのシンポジウムの要旨)『日本英文学会第 90 回大会 Proceedings』2018.9, p.263. 日本英文学会.
- ・「複合語形成から明らかになる部分名詞と形質名詞の性質について」『日本英文学会第 90 回大会 Proceedings』2018.9, pp.263-264. 日本英文学会.
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「語彙的複合語の意味構造再考」2018 年度京都外国語大学第 1 回大学院主催公開講演会, 2018. 9.29. 於京都外国語大学 〈招待講演.〉
- ・“Measuring events by word formation in Japanese: Quantification with *hito-* vs. degree modification with *ko-*”. Sugioka, Yoko, Ito, Takane, and Yumoto, Yoko. A poster in *The 26th meeting of the Japanese/Korean Linguistics Conference at UCLA.*2018. 11.28 to 2018. 12.1 〈査読あり〉
- ・「複合語形成における事象から属性へのシフトー「X+動詞連用形」型複合名詞を中心にー」益岡隆志・岩男考哲 (企画) ワークショップ『叙述類型論の諸問題』日本言語学会第 157 回大会, 2018.11.18. 於京都大学吉田キャンパス. 〈査読あり〉
〈研究助成〉
- ・科学研究費基盤研究(B) 『語形成から迫る形容詞の意味と項構造』研究代表者
[その他の活動]
〈管理運営〉グローバル連携オフィス副理事
〈学会活動〉日本言語学会評議員、日本言語学会編集委員、日本英語学会評議員、関西言語学会運営委員、言語文化学会企画編集委員、『日本語文法』、『レキシコン研究論集』の外部査読

【言語認知科学講座】

井元 秀剛 (IMOTO Hidetake) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知意味理論研究

〈全学共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級、地域言語文化演習、「囲碁」で論理的思考を養おう

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス語学、認知言語学

〈所属学会〉日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本認知言語学会、日本英語学会、国際ロマンス語学会、国際認知言語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「アスペクト研究覚え書き」『言語文化共同研究プロジェクト 2017：時空と認知の言語学 VII』、2018年5月
〈研究助成〉
- ・科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者：「メンタルスペース理論によるアスペクトに関する日英対照研究 (平成26年4月～)
[その他の活動]
〈管理運営〉 紀要編集委員会委員長、大阪大学21世紀懐徳堂企画会議委員

大神 雄一郎 (OGAMI Yuichiro) 助教

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 英語 (Reading)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 認知言語学、意味拡張、主観的表現、比喩的表現、日英対照

〈所属学会〉 日本認知言語学会、日本語用論学会、関西言語学会、日本英語学会、日本言語学会、日本語文法学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Ogami, Yuichiro (2018) "Specific Features of INTELLIGENCE Metaphors in Terms of EATING Concepts in Japanese and English," *JELS* 35, 294 - 300.
- ・ 大神雄一郎 (2018) 「お尻と背中を追いかけて—身体部位詞「尻」と「背中」の慣用表現の考察—」『KLS』38: 133-145.
- ・ Ogami, Yuichiro (2018) "Investigation of Moving Ego Metaphors in Japanese," *Papers from the 18th National Conference of the Japanese Cognitive Linguistic Association*, 332-344.
- ・ 大神雄一郎 (編集) 「日本語の時間移動型メタファーの言語的発現と成立基盤」『メタファー研究』2. 東京: ひつじ書房.
- ・ Ogami, Yuichiro (under review) "How Subjective Are Fictive Change Expressions in Japanese?" *Lingua Posnaniensis*.
- ・ 大神雄一郎 (査読中) 「物体の構成部分に言及する「XはYをしている」構文の表現—イメージ・メタファーによる身体性の具現化—」『メタファー研究』3. 東京: ひつじ書房.
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・ Ogami, Yuichiro (2018) "Investigation of Metaphorical 'Wave' and 'Tsunami' in a NP of Patterns," *Researching and Applying Metaphor* 12, 2018年6月28日, 香港理工大学.
- ・ Ogami, Yuichiro (2018) "A Flood of Metaphors, A Deluge of ... What? Metaphors in Terms of Water-Related Concepts in the 'A NP1 of NP2' Pattern," *Metaphor Festival 2018*, 2018年8月30日, アムステルダム大学.
- ・ 大神雄一郎 (2018) 「「青い目をしている」構文再考—「男好きのする顔をしたあの娘」は

どこからやってくるのか？」日本認知言語学会第19回全国大会, 2018年9月8日, 静岡大学.

・ Ogami, Yuichiro (2018) “The Japanese ‘X wa Y o siteiru’ Pattern as Simple Stative Expressions,” *Linguistics and Asian Languages* 2019, 2019年3月15日, アダム・ミツケヴィチ大学.
〈研究助成〉

・ 科学研究費補助金 (研究活動スタート支援: 研究代表者) 「性質・状態の意味を表す日本語動詞「スル」の用法と英語の対応表現に関する研究」(平成30年~31年)

[その他の活動]

〈学会活動〉日本認知言語学会全国大会実行委員、日本語用論学会メタファー研究会事務局、大阪大学言語文化学会事務局

〈社会貢献活動〉日本認知言語学会誌査読 (1件)

大森 文子 (OMORI Ayako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知レトリック論研究、言語認知科学特別研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉認知言語学

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本英語学会、日本認知言語学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・ *Advanced Reading Word to Word* (『ニュースメディアで読み解く現代日本』) 渡辺秀樹・大森文子共編、松柏社、2018年11月

〈論文〉

・ 「人の心と空模様: シェイクスピアのメタファーをめぐって」『メタファー研究1』鍋島弘治朗、楠見孝、内海彰編、pp. 175-194、ひつじ書房、2018年7月

・ 「喜びと悲しみのメタファー: Shakespeare の Sonnets をめぐって」『レトリック、メタファー、ディスコース (言語文化共同研究プロジェクト2017)』渡辺秀樹編、pp. 19-28、2018年5月

〈研究助成〉

・ 科学研究費補助金基盤研究(C) (2016-2019) 「英語メタファーの認知詩学」(研究代表者)

・ 科学研究費補助金基盤研究(C) (2015-2018) 「英詩メタファーの構造と歴史」(研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉(全学) 前期日程試験科目別連絡委員会委員、(研究科内) 研究企画推進委員会委員、国際交流委員会委員

〈学会活動〉言語文化レトリック研究会 (言語文化研究科内研究会) 主催

小葉 哲哉 (KOGUSURI Tetsuya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知言語学研究 B、研究実践基礎、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎、英語選択

[研究活動]

〈研究テーマ〉 語彙意味論・構文文法理論・並列構造理論

〈所属学会〉 日本英語学会、日本言語学会、日本認知言語学会、関西言語学会、日本語文法学会、日本英文学会、日本英文学会関西支部、英語語法文法学会、筑波英語学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・小葉哲哉 (2018) 「「自分」の付加詞用法に関する一考察—「自分から」を例に一」『言語文化共同プロジェクト 2018：認知・機能言語学研究 IV』 1-10、2018 年 5 月.
- ・小葉哲哉 (2018) 「非飽和名詞の意味論と受動化」『日本英文学会第 90 回大会 Proceedings: The 90th General Meeting of The English Literary Society of Japan』 19-20、2018 年 9 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・小葉哲哉 (2018) 「付加詞用法の「自分」の予備的考察—「自分から」を例に一」、洛中ことば倶楽部、2018 年 6 月、於奈良女子大学.
- ・小葉哲哉 (2018) 「日本語の再帰と受動—動作主性の観点から—」筑波大学加賀信広教授還暦記念 言語学特別ワークショップ、2018 年 9 月、於筑波大学.

〈研究助成〉

- ・文部科学省科学研究費若手研究 (B) (研究代表者) 『再帰構文における他動性と動作主性に関する対照研究』 (No. 17K13446) (平成 29 年度～平成 31 年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生支援委員会委員、図書委員会委員、ハラスメント相談員、英語リフレッシュ講座ワーキンググループ委員

〈学会活動〉 日本認知言語学会第 19 回全国大会実行委員

高橋 克欣 (TAKAHASHI Katsuyoshi) 准教授

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習 (フランス語)

〈学部教育担当科目〉 フランス語 1(A)(B)、フランス語 11、フランス語学講義 a,b、フランス文化演習 IVa,b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フランス語学、フランス語教育

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、日本フランス語教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・影浦亮平、高橋克欣、武内英公子 (2018)「話す能力をどう評価するか。 - CECRL と OPI(Oral Proficiency Interview)の比較を通して - 」、『Rencontres』第 32 号、pp. 35-39、2018 年 7 月
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・高橋克欣 (2018)「時況節の談話的機能と時制解釈 - quand 節、comme 節に現れる半過去を中心に - 」大阪大学フランス語フランス文学会第 83 回研究会、2018 年 9 月 29 日、大阪大学
- ・ KAGEURA Ryohei, TAKAHASHI Katsuyoshi, TAKEUCHI Ekuko (2018) « Comment évaluer les productions orales en français langue étrangère (FLE) - le CECRL et the ACTFL Proficiency Guidelines - » Colloque international 2018 « Les nouvelles stratégies de l'enseignement du français : enjeux et innovations », 2018 年 11 月 23 日、淡江大学 (台湾)

[その他の活動]

〈管理運営〉 広報・社会貢献検討委員会委員 (後期)

〈学会活動〉 日本フランス語教育学会会計担当理事

田村 幸誠 (TAMURA Yuki-Shige) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知意味論研究 A, B

〈共通教育担当科目〉 英語総合 I, II

〈学部教育担当科目〉 英語 2、英語学概論 a, b、英語学演習、英語学特別演習 IIIa, IIIb

[研究活動]

〈研究テーマ〉 言語学、認知類型論、英語とユピック・エスキモー語の対照研究

〈所属学会〉 日本英文学会、日本言語学会、国際類型論学会、米国言語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Tamura, Yuki-Shige (2019) “Nominalization in Central Alaskan Yup’ik,” *Nominalization in Languages of the America (Typological Studies in Language vol.124)*, Roberto Zariquerry, Masayoshi Shibatani and David W. Fleck (eds), 273-300, John Benjamins, Amsterdam.
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・ 田村幸誠 (2018) 「中央アラスカユピック語 (CAY) に観察される体言化の特徴」第二回体言化研究会, 於 大阪大学 (2018 年 9 月 17 日).
- ・ 田村幸誠 (2019) 「Nonce nominalization と lexical nominalization: 音と意味の並行関係に関する議論も含めて」第 9 回認知文法研究会, 於 大阪大学 (2019年3月17日).

〈研究助成〉

- ・ 科研費基盤研究 C (名詞化と補文化に関する通言語的研究ーユピック・エスキモー語を中心にー)

[その他の活動]

〈管理運営〉 入試委員 (外国語学部)

〈学会活動〉 日本英文学会編集委員、日本言語学会大会運営委員、日本英文学会関西支部編集委員

早瀬 尚子 (HAYASE Naoko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知言語学研究・認知言語学特別研究

〈共通教育担当科目〉 専門基礎 (ヨーロッパ・アメリカ言語文化研究入門)

〈学部教育担当科目〉 英語 3 (LL)・英語 13 (総合英語)・英語学演習・英語学特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 認知言語学的枠組みによる構文研究、言語の主観性、視点、日英比較

〈所属学会〉 関西言語学会、日本英語学会、日本認知言語学会、国際認知言語学会(International Cognitive Linguistics Association)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ 早瀬尚子 (2018) (編著) 『言語の認知とコミュニケーションー意味論・語用論, 認知言語学, 社会言語学ー』

〈論文〉

- ・ 早瀬尚子(2018) 「名詞の認知文法論」『認知文法論 I』 西村義樹 (編) 大修館書店、pp. 25-87.
- ・ HAYASE Naoko (2018) “Issues Regarding the Status of Constructional Schema” 『認知言語学研究』 3号, pp. 71-88.
- ・ 早瀬尚子 (2018) 「認知言語学は語用論についてどのように考えているのだろうか?」『認知言語学とは何かーあの先生に聞いてみよう』 高橋英光,野村益寛,森雄一 (共編) くろしお出版 pp. 63-85.
- ・ 早瀬尚子 (2018) 「最新の意味論研究の進展」早瀬尚子 (編著) 『言語の認知とコミュニケーションー意味論・語用論, 認知言語学, 社会言語学ー』 pp. 1-66.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 早瀬尚子 (2018) 「認知言語学は語用論についてどのように考えているのだろうか?」第 14 回「洛中ことば倶楽部」(於 大阪大学中之島センター: 2018 年 3 月 31 日)
- ・ 早瀬尚子 (2018) (招待講演) 「懸垂分詞から慣用的語用論標識へ」筑波大学 言語学講演会 (於 筑波大学文芸・言語: 2018 年 12 月 13 日)

〈研究助成〉

- ・ 文部科学省 科学研究費基盤研究 (C) 「主観的事態把握から対人関係的機能の発達の多様性に関する多言語研究」 (No.18K00647) (平成 30 年度～33 年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉 施設マネジメント委員

〈学会活動〉 理事 (日本認知言語学会)、運営委員 (関西言語学会)

〈博士論文審査〉 1 名

〈社会貢献活動〉 英語リフレッシュ講座講師 (大阪大学大学院言語文化研究科主催公開講座)

渡辺 秀樹 (WATANABE Hideki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 認知レトリック論研究、言語認知科学特別研究

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語

〈学部教育担当科目〉 英語学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 古英詩テキスト解釈、英語文体論、英詩メタファー研究、時事英語 Reading 教科書編集

〈所属学会〉 日本中世英語英文学会、国際英語正教授連盟、日本英文学会、日本英文学会関西支部、

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ 渡辺秀樹・大森文子共編 2018. 11. *Advanced Reading Word to Word*. (『ニュースメディアで読み解く現代日本』) 松柏社

〈論文〉

- ・ 渡辺秀樹 2018. 5. 「英語感情名詞のメタファーの系譜 第 1 回 序及び fear (*The Oxford English Dictionary* 引用例を資料として)」『レトリック、メタファー、ディスコース 言語文化共同研究プロジェクト 2017』渡辺秀樹編集. pp. 1-18.
- ・ Hideki Watanabe, 2018. 12. “The Significance of *nacod nið-draca* (*Beowulf* 2273a) Reconsidered: The Metaphorical Link Interconnecting fire, swords, warriors and monsters” in *Aspects of Medieval English Language and Literature* (Berlin: Peter Lang) pp. 41-60.

〈研究助成〉

- ・ 科研費 基盤研究(C) 英詩メタファーの構造と歴史 (2015-2018) 研究代表者
- ・ 科研費 基盤研究(C) 英語メタファーの認知詩学 (2016-2019) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 全学入試委員会委員、総合学術博物館兼任教員、言語認知科学講座主任

〈学会活動〉 日本中世英語英文学会評議員

〈社会貢献活動〉放送大学講師 英語 Reading (英文精読と翻訳)

【マルチリンガル教育センター】(Center for Multilingual Education)

[英語]

BRENES, Ivan, Specially Appointed Associate Professor (特任准教授)

[Teaching activities]

<Foreign language classes> English Speaking, Practical English, English Writing, Advanced English Speaking, English Integrated Course

[Academic activities]

<Research fields and interests> Sociolinguistics of Orthography, Language Endangerment

<Academic society memberships> The Japan Association of College English Teachers, Foundation for Endangered Languages

COHEN, Tamara(h), Specially Appointed Associate Professor (特任准教授)

[Teaching activities]

<Foreign Language classes>

Elective English; Integrated English II-IV; Practical English; English Speaking; Advanced English Speaking and English Writing: all taught as content courses using original (mostly paper-free) materials made specifically for Osaka University students

[Academic activities]

<Research fields and interests>

Transforming mandatory skills-based English courses into intellectually relevant, critically engaged learning opportunities. A small sampling from the 2018 academic year: Practical English, delivered as a Body Toxic, content course with an emphasis on human and environmental health; English Writing, delivered as a Food Politics content course with an emphasis on health patterns associated with food and die; Elective English, delivered as an Animal Welfare content course with an emphasis on the international issues arising from animal use in all its forms; Integrated English (for medical students), delivered as an International Gender Equality content course with an emphasis on narrative, analysis and policy prescriptions

<Academic society memberships>

Gender Awareness in Language Education [i.e., GALE, special interest group of JALT]

[Academic achievements]

<Pedagogical Materials Writing>

Continue in the writing of original, critically-imbued, technologically-infused, modality-specific pedagogical materials that 1. Correspond, chapter by chapter, with adult-level non-EFL publications (used currently in lieu of commercial EFL textbooks) or 2. Are Internet-based and thus paper-free. The 2018 academic year's addition to the list of original materials tailored to the specific needs of Handai students: The Atlas of Food: With a New Introduction (Paperback) by Erik Millstone. University of California Press; updated edition (March 1, 2013); ISBN-10: 0520276426; ISBN-13: 978-0520276420

[Other activities]

<Refresher Course, summer 2018>

LANGUAGE AND GENDER: A WORKSHOP

1. What is 'Male Normatively'? (Exercise and short video); 2. 'Avoiding Sexist Language' (handout and follow-up quiz); 3. The Myth of Female Volubility; 4. Encouraging "Fair Share" in the Classroom (video excerpt); 5. Content Analysis (of textbooks); 6. Resources)

GOVOROUNOVA, Alena, Specially Appointed Associate Professor (特任准教授)

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Interdisciplinary Cultural Studies A / B (seminars),

The Components of a Master's Thesis in English

Navigating Global Controversies: Critical Thinking through a Multicultural Lens in a Postmodern World

<Foreign language classes>

English Reading, Practical English, Basic ESP, Advanced English, English: Integrated Course

[Academic activities]

<Research fields and interests>

Cultural Studies, Multiculturalism, Global Studies, Comparative Religion, Science and Religion Dialogue, Philosophy of Religion, Philosophical Theology

<Academic society memberships>

International Association for the Psychology of Religion

[Academic Achievements]

<Papers>

- "Celebrating the Triumph of Nature in a Japanese Ecofantasy World: On the Buddhist and Shinto Motives in the Animation of Miyazaki Hayao," *Studies in Language and Culture* 44, Osaka University, 2018, pp. 205-221

<Grants-in-aid>

John Templeton writing workshop travel grant *Beyond the Ivory Tower: Writing in the Sciences*

HELVERSON, Gwyn A, Specially Appointed Associate Professor (特任准教授)

[Teaching Activities]

<Foreign Language Classes> English (Speaking) I & II, English (Writing), Basic ESP II, Practical English I & II, Advanced (Reading), Advanced (Speaking), Test-taking Preparation Course

[Academic Activities]

<Research fields and interests> Art Historical Studies, including post-colonialism and gender studies, Sociolinguistics, EFL pedagogy

<Academic Society Memberships and activities> JALT, GALE, GILES, EAJS, TOEFL (US), Editor-in-Chief of The Gale Journal

<Academic Advising>

Advised undergraduate students about study abroad programs, advised on writing skills, wrote recommendations for study abroad programs.

[Academic Achievements]

<Presentation>

Helverson, G. (2018, March 30-April 1). Art History Redefined: Japanese art as the new center? An analysis of Yamaguchi Akira's *Strange Japanese Art History*. IAFOR: The Asian Conference on Arts & Humanities 2018.

<Other activities>

Translation and proofreading: The Global Art Project 2020, Japan country coordinator

<Social activities>

Lecturer of Refresher Course for English Teachers

Malik, Luke, Specially Appointed Associate Professor (特任准教授)

<https://osaka-u.academia.edu/LukeMalik>

https://www.researchgate.net/profile/Luke_Malik3

[Teaching activities]

<Foreign language classes> Advanced English Speaking; Advanced English Writing; Basic ESP; English Integrated Course (Medical English); Practical English; English Speaking.

<Other classes> Contemporary Philosophy; Ontology L.

<Graduate classes> Ontology S.L.

[Academic activities]

<Research fields and interests> Philosophy of Language; Philosophy of Mind; Metaphor; Category Mistakes

<Academic society memberships> Philosophy Association of Japan

[Academic Achievements]

<Papers>

- Malik, L. 2018. "Metaphorical Utterances and Category Mistakes." *Rhetoric, Metaphor, Discourse*. Pp.99-109

< Conference presentations and lectures >

- "Metaphorical Utterances and Category Mistakes," Rhetoric Society, April 2018, Department of Language and Culture, Osaka University, Osaka, Japan
- "Metaphorical Utterances and Category Mistakes," XXIV World Congress of Philosophy, August 2018, Beijing University, Beijing, China
- "Metaphors and Category Mistakes," Metaphor Festival, August 2018, University of Amsterdam, Amsterdam, Holland
- "Donald Davidson on Metaphor," Philosophy Department Seminar, February 2019, Department of Philosophy and History of Philosophy, Osaka University, Osaka, Japan

TANG, Polly Liyen, Specially Appointed Associate Professor (特任准教授)

[Teaching activities]

<Foreign language classes> English Speaking, Practical English, Basic ESP, Advanced English Speaking, Integrated Course, English Elective

[Academic activities]

<Research fields and interests> Peer Feedback, Discourse Analysis, Communication Studies, Genre Discourse

<Academic society memberships> Japanese Association for Language Teaching, Japanese Association for College Language Teachers

[Academic Achievements]

< Conference presentations and lectures >

- Activities for Speaking Classes. Professional Development Forum; Meisei University International Studies Centre; Tokyo, Japan; November 2018

[ドイツ語]

アウマン オリバー (AUMANN Oliver) 外国人教師

<http://www.oliver-aumann.de>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ドイツ語特別演習 B

〈共通教育担当科目〉 国際コミュニケーション演習 (ドイツ語)、ドイツ語初級選択、ドイツ語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 日本学・比較宗教学

〈所属学会〉 日本独文学会

[研究業績]

〈論文〉

- Ein Buch im Buch? – Die „Inneren Kapitel des *Zhuangzi*“ In: *Bunka no kaidoku 18* („Die Entzifferung von Kultur“) – 神話的なものとその解体 (“The Legendary and its Dismantling”), Osaka University: Graduate School for Language and Culture 2018, S. 1 - 10.

〈翻訳・翻訳書〉

- *Das Buch Zhuangzi – Die Inneren Kapitel*. Verlag Karl Alber 2018.

[その他の活動]

〈社会貢献活動〉

DAAD (ドイツ学術交流会) 留学アドバイザー、Japan Foundation (国際交流基金関西国際センター) 外国人研修生支援

フェーゲル ベルトリンデ (VOEGEL Bertlinde) 外国人教師

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Special Language Class B (German)

<Foreign language classes> International Communication (German) for students in the first and second year

[Academic activities]

<Research fields and interests> Fluency in Speaking, Grammar Teaching, Brain Research on Learning and Teaching

<Academic society memberships> Japanese Association of Language Teaching (JALT), Japanische Gesellschaft für Germanistik (JGG), Japanischer Deutschlehrerverband (JDV), Japanischer Verein für Germanistik im Bezirk Osaka/Kobe (阪神ドイツ文学会)

[Academic Achievements]

< Conference presentations and lectures>

- Presentation at the international JALT-Conference in Shizuoka (23. - 26. Nov. 2018) as one of the presenters at the Multilingualism Forum, OLE-SIG, „Brain research in Germany: A survey of approaches “.
- Presentation at the international JALT-Conference in Shizuoka (23. - 26. Nov. 2018) as one of the presenters at the German Workshop, OLE-SIG, „Grammatik für Anfänger: Texte schreiben statt Lückenübungen. Analysen von Lernertexten und Umfrageergebnisse “

[Other activities]

<Academic society activities>

- Coordinator of the special interest group “Other Language Educators” within JALT

<Social activities>

- Member of the organizing committee of the annual Seminar on Austrian Contemporary Literature

[フランス語]

ガラベ クリストフ (GARRABET Christophe) 特任准教授

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 国際コミュニケーション演習 (フランス語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 文学と科学の関係 ― 19 世紀後半における大衆科学文学

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会

[研究業績]

〈論文〉

- GARRABET Christophe, « La figure paradoxale d'un découvreur révolutionnaire. Kepler dans le théâtre de Louis Figuiet », in Azélie FAYOLLE et Yohann RINGUEDÉ (dir.), *La découverte scientifique dans les arts*, Champ sur Marne, Laboratoire LISAA, pp.117-130, 2018年10月

サラニョン バンジャマン (SALAGNON Benjamin) 特任准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語特別演習 A (フランス語)、言語特別演習 B (フランス語)

〈共通教育担当科目〉 国際コミュニケーション演習(フランス語)、フランス語中級、フランス語上級

〈学部教育担当科目〉

[研究活動]

〈研究テーマ〉 日本現代文学、ジャポニスム

〈所属学会〉 IETT (Institute for Transtextual & Transcultural Studies) Lyon

[研究業績]

〈論文〉

- SALAGNON Benjamin, Réception et traduction de la littérature japonaise en France : la place singulière de Murakami Haruki, 表象と文化 XV, 大阪大学大学院言語文化研究科, 2018 年, pp. 67-76.
- 伊勢、谷口、SALAGNON (共作)、「ふらんす」雑誌、「街角のフランス語を読んでみよう」、白水社、2018 年 1 月～12 月号
- 〈研究助成〉
- 基盤研究(C) (一般) 研究分担者 (研究代表者 伊勢晃): 「ベル・エポック期における文学・美術思潮からみた映画の位相と影響に関する実証的」研究補助事業期間 平成30

年度～平成32年度

[中国語]

夏 嵐 (XIA LAN) 特任准教授

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉中国語初級、中国語中級、国際コミュニケーション演習（中国語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国演劇、中国話劇史上の翻訳劇

〈所属学会〉日本中国学会、中国比較文学学会

[研究業績]

〈書評・論評・紹介〉

- ・「中国語劇を演じるに当たって ―過去二年の実践から」、『言文プロジェクト2018』、2018年6月、大阪大学大学院言語文化研究科

[マルチリンガル教育開発オフィス]

田中 美津子 (TANAKA Mitsuko) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉英語(Reading), 選択英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉動機づけ, 評価

〈所属学会〉全国語学教育学会, 大学英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 日本言語テスト学会, American Association for Applied Linguistics, British Association for Applied Linguistics, TESOL International Association

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Tanaka, M. (2019, March). Effects of group work environment on motivation and learning outcomes. Poster session presented at the TESOL 2019 International Convention & English Language Expo, The Georgia World Congress Center, Atlanta, GA, USA.
- ・ Tanaka, M. (2018, November). Optimizing rating scales using the Rasch model. Paper presented at the 44th annual international conference of the Japan Association for Language Teaching (JALT), Shizuoka Convention & Arts Center (Granship), Shizuoka.
- ・ 田中美津子 (2018年9月). グループワーク環境が動機づけに及ぼす影響. 動機づけ研究会(関西). 大阪大学. 大阪.
- ・ Tanaka, M. (2018, June). Individual perceptions of group work environment and L2 learning

motivation. Paper presented at the 3rd international Psychology of Language Learning conference (PLL3), Waseda University, Tokyo, Japan.

〈研究助成〉

- ・ 2017～2019 年度, 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 C 「グループ環境が EFL 学習者の動機づけに及ぼす影響」 (17K02993) 研究代表者

[その他の活動]

〈社会貢献活動〉 International Review of Applied Linguistics in Language Teaching (De Gruyter 発行国際誌) 査読委員, Studies in Second Language Learning and Teaching (Adam Mickiewicz University, Kalisz, Poland) 査読委員

柳田 亮吾 (YANAGIDA Ryogo) 特任助教 (常勤)

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)、実践英語、専門英語基礎

[研究活動]

〈研究テーマ〉 社会言語学：ポライトネス研究、(批判的) 談話分析

〈所属学会〉 社会言語科学会、日本語用論学会、International Pragmatic Association

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 大塚生子・柳田亮吾 (2018) 「イン／ポライトネスからみたヘイトスピーチ」 大阪大学大学院文学研究科・文学部 若手研究者ワークショップ 社会における言語使用としてのヘイトスピーチ vol.1
- ・ Ryogo Yanagida, Seiko Otsuka (2018) 'Heckling and counter-heckling in the Japanese parliamentary debates', 11th international conference on im/politeness
- ・ Seiko Otsuka, Ryogo Yanagida (2018) 'Fellow moms (mama-tomo) conflict "politely" with each other: How and why they conduct facework from the perspective of demeanor', 11th international conference on im/politeness
- ・ Ryogo Yanagida, Seiko Otsuka (2018) 'Hate speech and (im)politeness', Public workshop 'Hate speech: International perspectives in and for Asian region'

〈研究助成〉

- ・ 研究代表者：科研費若手 (B) 国会討論をもとにした政治コミュニケーションの批判的談話研究：対人関係を中心に (課題番号：16K211470)